

2025 年
都産技研の利用に関する調査
アウトカム
評価報告書



2026 年 4 月

はじめに

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（以下、「都産技研」という。）は、2006年4月に全国の公設試験研究機関に先駆けて地方独立行政法人化いたしました。今後とも地方独立行政法人としてのメリットとスタンスを生かして、機動的かつ柔軟な事業運営を展開し、技術相談、依頼試験、機器利用、共同研究などさまざまな事業を通じて、企業等の皆さまに、より良い支援を提供してまいります。

都産技研をご利用いただいている皆さまのお役にたてるよう、ご利用に関する要望・意見などをお伺いする「都産技研の利用に関する調査」を先般実施いたしました。今回は1830名の皆さまにアンケートを依頼し、1009名からご回答をいただきました。

調査の結果は、都産技研の事業運営や支援方法の改善を図る資料として、活用させていただきます。

調査にご理解とご協力をいただきました企業等の皆さま方に心より御礼申し上げますとともに、今後とも都産技研の一層のご利用をお願い申し上げます。

2026年4月

地方独立行政法人

東京都立産業技術研究センター

理事長 黒部 篤

目 次

1. 調査概要	1
1. 1. 調査目的	1
1. 2. 調査対象	1
1. 3. 調査方法	1
1. 4. 調査内容(調査用紙の項目).....	1
1. 5. 回収結果	1
1. 6. 集計・分析にあたって	1
2. 調査結果	2
2. 1. 都産技研利用のきっかけ	2
2. 2. 都産技研の利用実態について	3
(1) 技術相談	4
(2) 依頼試験	8
(3) 機器利用	12
(4) 講習会・技術セミナー	16
(5) オーダーメイド型技術支援.....	18
【事業の比較まとめ】.....	22
2. 3. 都産技研の利用による経済的効果について	23
2. 4. 都産技研の利用による事業効果について	27
2. 5. 今後の利用意向および要望について	29
2. 6. 参入予定分野について.....	32
2. 7. 情報提供について.....	34
3. 総括	35
3. 1. 利用者からのご意見・ご要望	35
3. 2. ご意見をもとに改善した例について	36
参考資料	37

1. 調査概要

1.1. 調査目的

都産技研の利用企業などにおける、利用満足度やその活用実態、支援ニーズなどを把握し、都産技研の事業運営や支援方法の改善などに必要なデータを取得するために実施した。

1.2. 調査対象

2025年1月6日から2025年12月26日までの間に、都産技研を利用した実績のある企業などの社員の方で、個人情報の利用に同意いただいた方1,830名を対象とした。

1.3. 調査方法

配布方法：調査用紙を郵送にて対象者に配布。

回収方法：記入した調査用紙を郵送、またはオンラインにて回答。

期間：2026年2月6日から2026年3月6日まで

1.4. 調査内容(調査用紙の項目)

- (1) 会社の概要について
- (2) 利用のきっかけ
- (3) 各事業の利用実態について
 - ・利用目的、目的達成度、具体的な成果、職員の対応 など
- (4) 経済的効果について
- (5) 事業効果について
- (6) 興味関心や要望について
 - ・今後の利用希望サービス、参入予定分野 など
- (7) 情報提供について

1.5. 回収結果

1,009名の方から回答をいただいた。(回収率55.1%)

1.6. 集計・分析にあたって

調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。

2. 調査結果

2.1. 都産技研利用のきっかけ

都産技研を利用したきっかけをみると、「ウェブサイト」、「自社（自校）の方からの紹介」の回答割合が高い。また、「その他」の回答が 87 件あるが、そのうち「以前から利用・知っていた」の回答が多くなっている。

都産技研利用のきっかけ(複数回答)

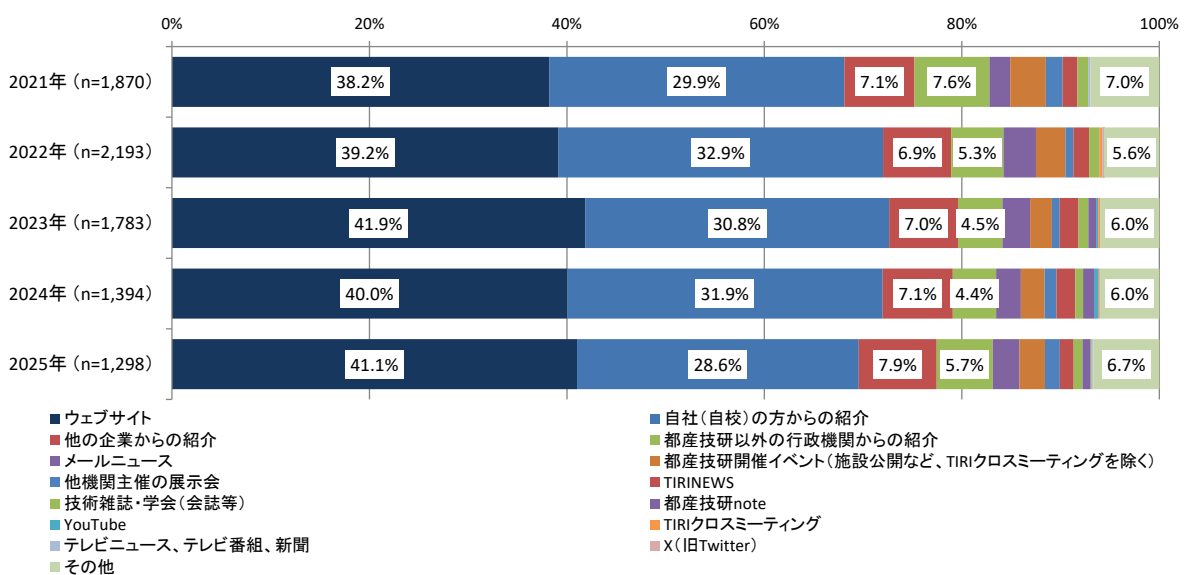
回 答	件数	割合
ウェブサイト	533	41.1%
自社（自校）の方からの紹介	371	28.6%
他の企業からの紹介	102	7.9%
都産技研以外の行政機関からの紹介	74	5.7%
メールニュース	35	2.7%
都産技研開催イベント（施設公開など、TIRI クロスミーティングを除く）	34	2.6%
他機関主催の展示会	19	1.5%
TIRI NEWS	18	1.4%
技術雑誌・学会（会誌等）	12	0.9%
都産技研 note	10	0.8%
YouTube	1	0.1%
TIRI クロスミーティング	1	0.1%
テレビニュース、テレビ番組、新聞	1	0.1%
X（旧 Twitter）	0	0.0%
その他	87	6.7%
合 計	1,298	100.2%

[その他の主な内容]

- ・以前から利用・知っていた(45 件)
- ・前職で利用 (7 件)

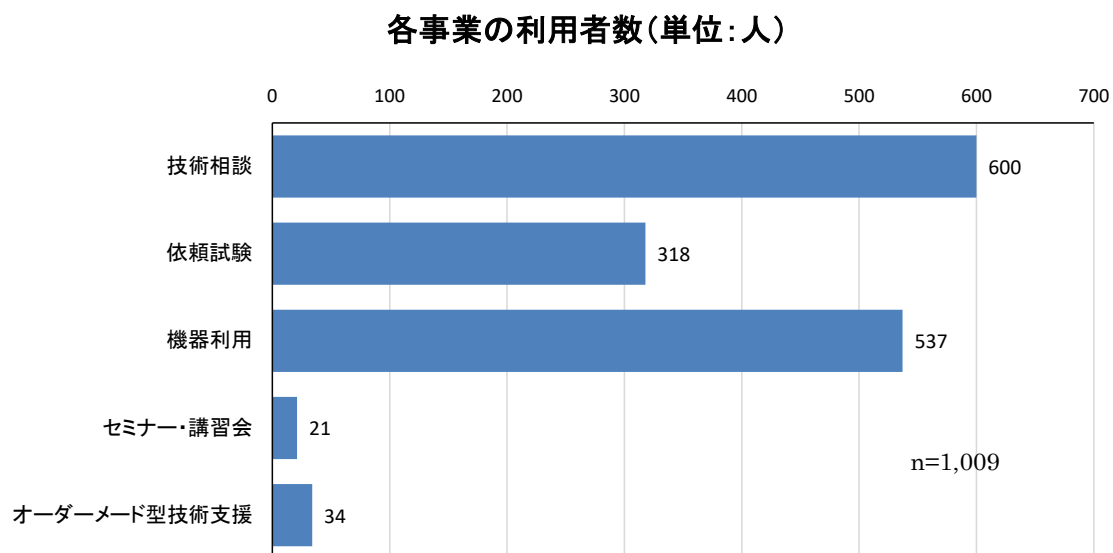
経年推移をみると、大きな傾向の変化はなく、「ウェブサイト」、「自社（自校）の方からの紹介」の回答割合が高い。

都産技研利用のきっかけ(推移)



2.2. 都産技研の利用実態について

本アンケートの対象者である1,009名が2025年に利用した都産技研事業の内訳は、「技術相談」が600名、「依頼試験」が318名、「機器利用」が537名、「講習会・技術セミナー」が21名、「オーダーメイド型技術支援」が34名であった。



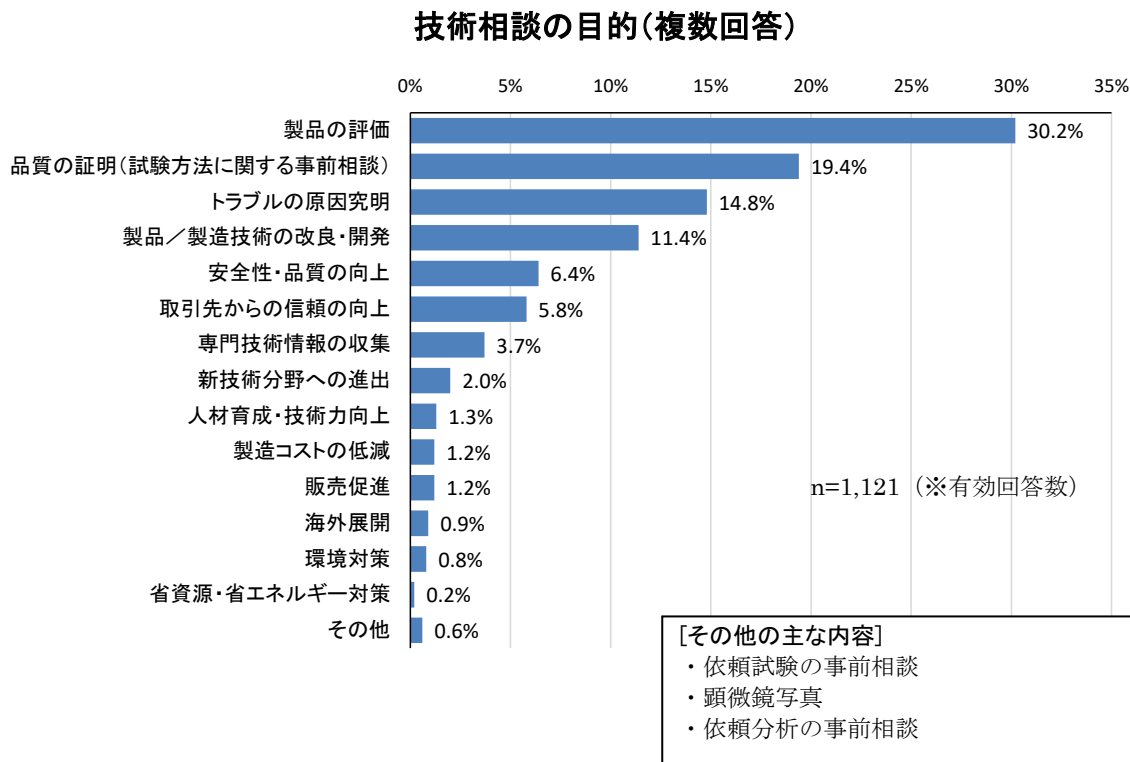
※利用者によっては、複数事業の利用があるため、それぞれの事業の回答数の合計がn数を超える。

(1) 技術相談

(1) 技術相談

本設問では、「技術相談」事業について、その利用目的、目的達成度、職員の対応などについて、回答をいただいた。

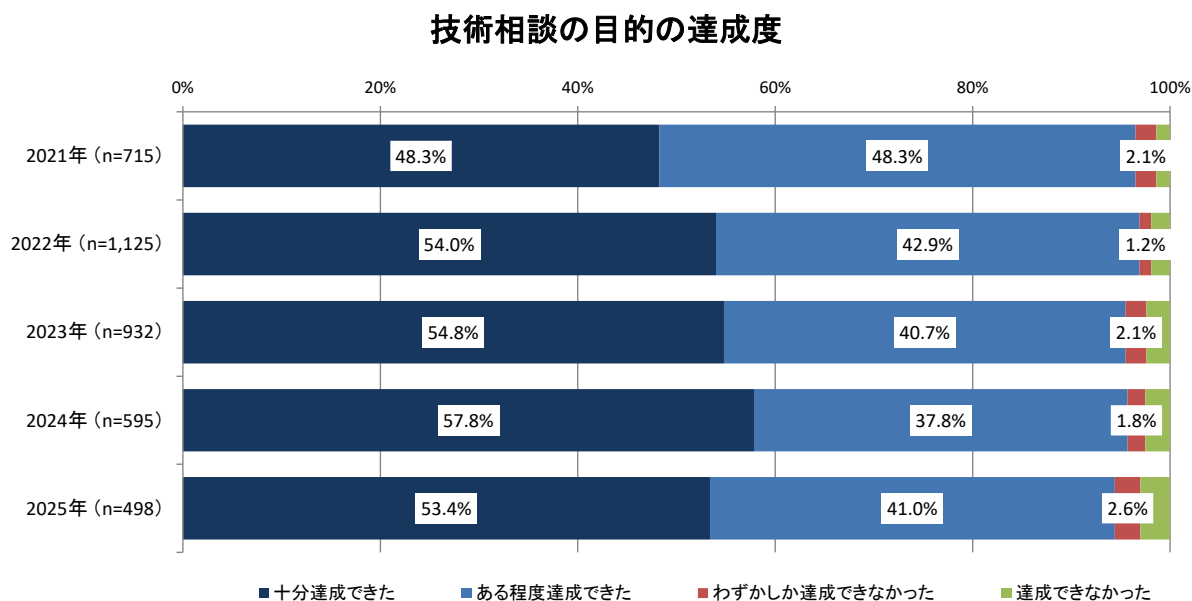
技術相談の利用目的としては、「製品の評価」の回答割合が突出して高い。次いで、「品質の証明」、「トラブルの原因究明」、「製品/製造技術の改良・開発」の回答割合が高い。



※本アンケートの複数回答の設問の集計は、回答者数ではなく有効回答数(回答件数)を母数として算出している。次ページ以降の複数回答の設問の集計も同様である。

(1) 技術相談

技術相談の目的達成度は、「十分達成できた」が53.4%、「ある程度達成できた」が41.0%となっている。90%以上の利用者が十分あるいはある程度、目的を達成している。経年変化をみると、「十分達成できた」の割合が2024年と比べ若干減少している。



上述のような目的達成に関する具体的な成果について、265件のコメントをいただいた。成果の具体的な内容例は以下のとおり。

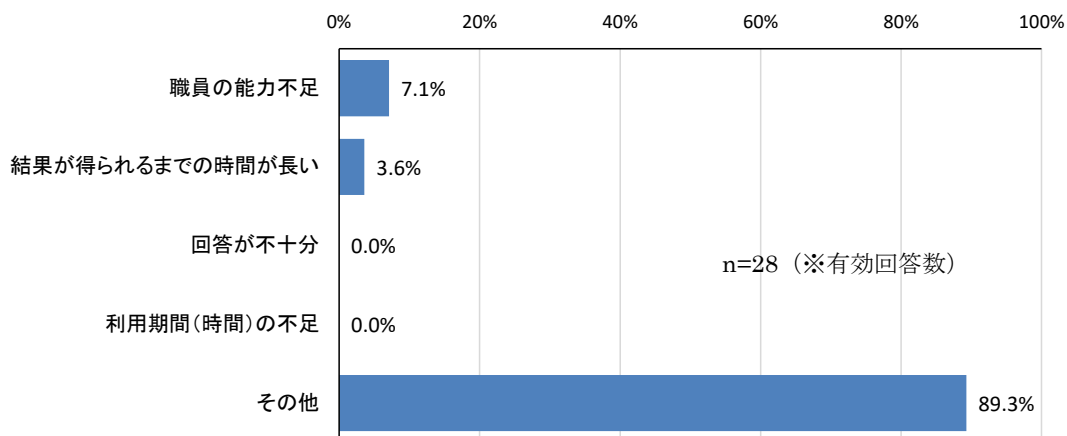
技術相談による成果の内容(回答内容から一部抜粋)

- トラブルの原因が判明し、対策が出来る様になった。(不良品対策)
- E U規格・規制のCEマーク適合品とするための相談対応と試験装置による結果を基に適合を達成できた。
- 三次元測定器を用いて、各寸法を測定することで、図面通りにできているかの確認ができた。
- 購入して使っていたモータ試験装置について、正しい使い方、データの解釈の仕方、などが理解できた。試験ができる人材を増やせた。
- モータの性能について開発品と他社比較の試験が実施でき、基本性能の開発について目途付けが完了した。
- 事前相談し、試験を円滑に進められた。試験結果をツールに数値で入力でき、データとして利用できる環境を構築出来た。
- 技術相談関係としては、判断がつかないから相談するのであるが、仕方がないことであるが最終的には「御社の判断(方針)」的な回答でまた悩むことがある”

(2) 技術相談

目的達成度について「わずかしこ達成できなかった」、「達成できなかった」とした回答者に達成度が低い理由を聞いたところ、「その他」の回答割合が高かった。

目的達成度が低い理由(複数回答)

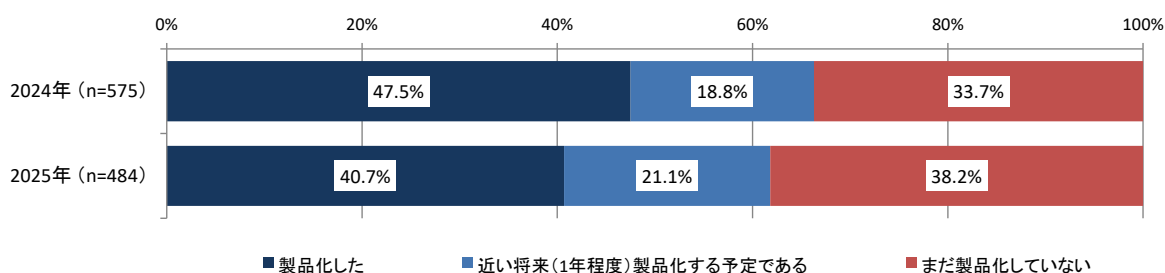


[その他の主な内容]

- ・設備が目的と合わなかった。
- ・トラブルの原因が難解であったため、解決に至らず。
- ・特殊加工してくれる業者紹介して欲しかったが、そのようなサービスは無い。
- ・成分分析が困難であった。
- ・目的を達成するための方法を相談したが、試験機器の操作がメインの方だった。

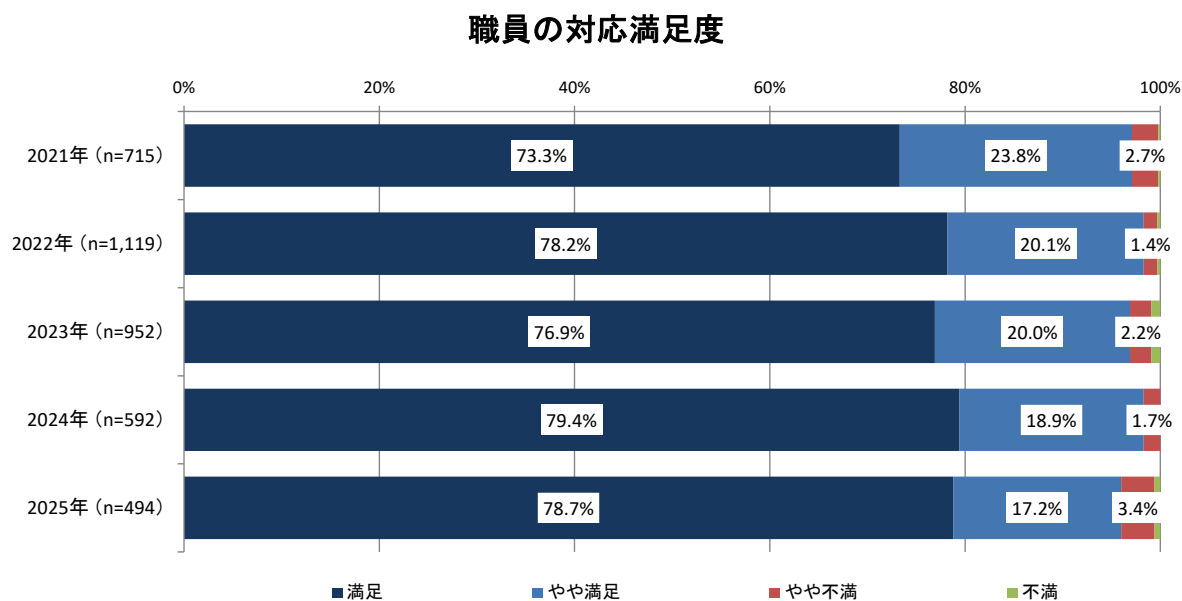
技術相談を利用後、製品化に至ったかについては、「製品化した」が40.7%、「近い将来(1年程度)製品化する予定である」が21.1%、「まだ製品化していない」が38.2%となっている。経年変化をみると、「製品化した」は2024年と比べ6.8ポイント減少している。

製品化状況



(1) 技術相談

技術相談の職員の対応満足度については、「満足」の回答割合が78.7%、「やや満足」が17.2%と、合計して95.9%が満足と答えている。

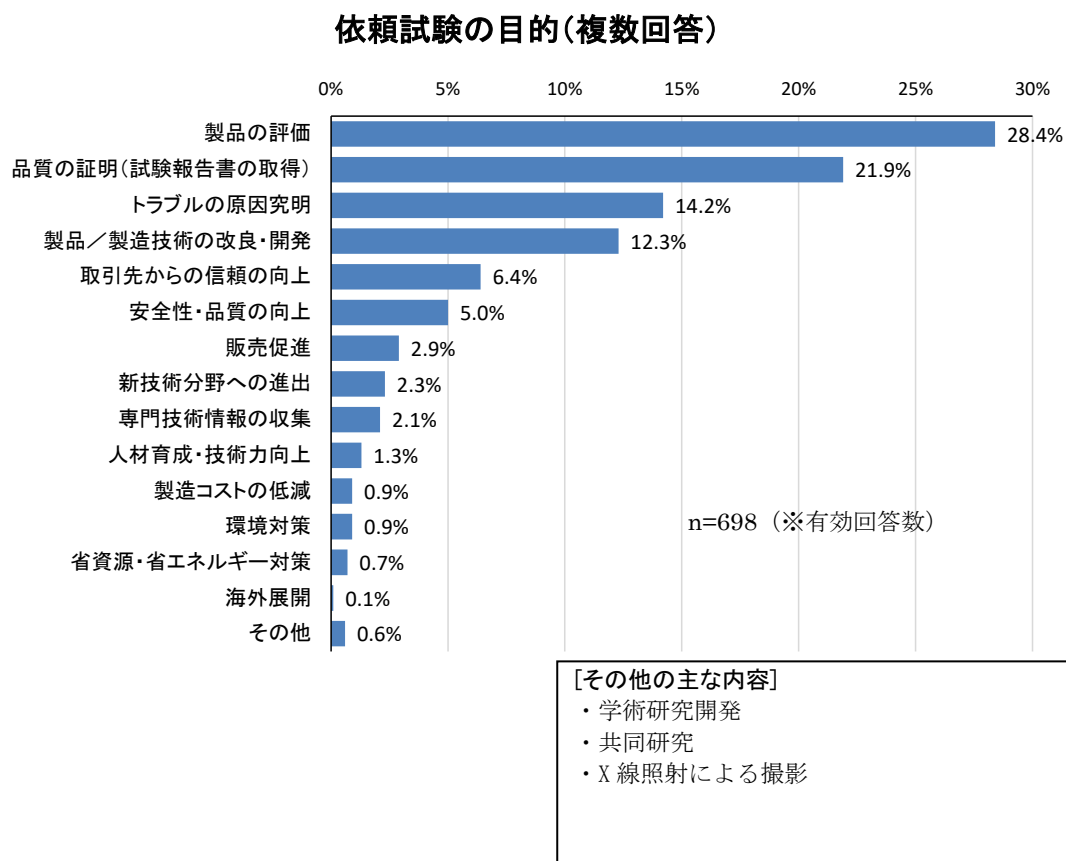


(2) 依頼試験

(2) 依頼試験

本設問では、「依頼試験」事業について、その利用目的、目的達成度、職員の対応などについて、回答をいただいた。

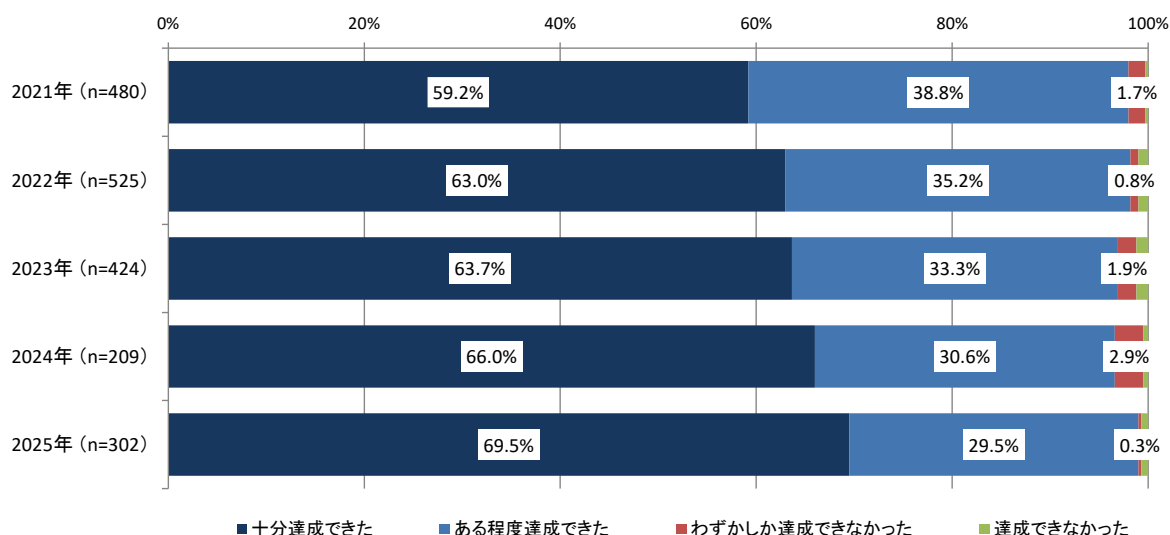
依頼試験の利用目的としては、「製品の評価」、「品質の証明」の回答割合が高く、次いで「トラブルの原因究明」、「製品/製造技術の改良・開発」、「取引先からの信頼の向上」、「安全性・品質の向上」の回答割合も一定程度あった。



(2) 依頼試験

依頼試験の目的達成度は、「十分達成できた」が69.5%、「ある程度達成できた」が29.5%となっており、95%以上の利用者が十分またはある程度、目的を達成している。経年変化をみると、「ある程度達成できた」の回答割合が若干減少し、「十分達成できた」の回答割合が若干増加している。

依頼試験の目的達成度



上述のような目的達成に関する具体的な成果について、141件のコメントをいただいた。成果の具体的な内容例は以下のとおり。

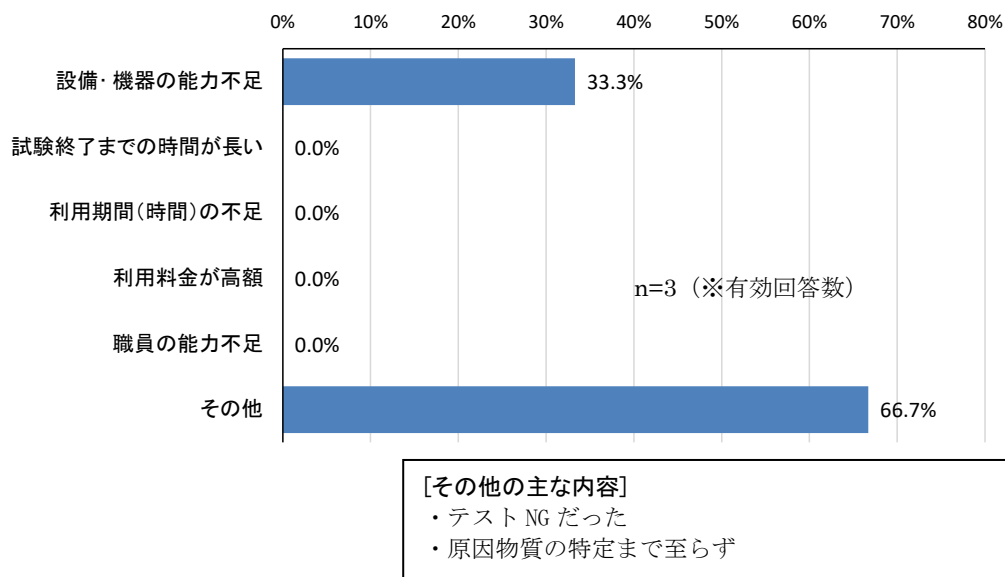
依頼試験による成果の内容(回答内容から一部抜粋)

- 製品の耐候性テストで確認できたので商品とし販売した。10年以上販売を予定している。
- 客先の性能評価要求に対し、自社で試験装置を持っていない試験を実施して頂き、納入できるようになった。引張り試験。
- 自社製品の性能をお客様にプレゼンできるデータとなりました。
- 医療機器の認証申請に必要な顕微鏡写真が撮影することができた。
- アルミ製日用品の製品化にご協力いただきました。また、顧客の性能要求に対し評価レポートを提出するなどのご協力も戴きました。
- 新規案件に対して量産初期に8%以上の不良が出ていたが、貴所にて相談して色々と検証した結果、原因と思われる事象を都度改善してゆくうちに0.5%以下のレベルまで押さえ込むことが出来た。
- トラブルが出にくい材料に変更が出来た。
- 開発中の製品について、規格に則った試験を依頼試験にて実施し、製品としてリリースに至った。
- 事故の原因究明なので製品化することには繋がりませんが、品質の向上に繋がる事ができました。

(2) 依頼試験

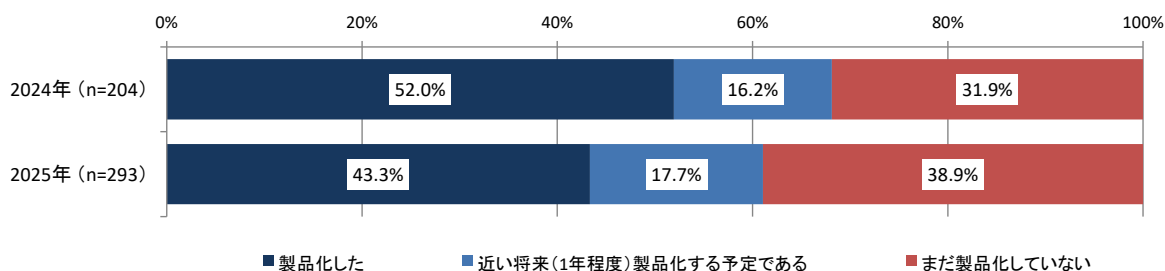
目的達成度について、「わずかしこ達成できなかった」、「達成できなかった」とした回答者に達成度が低い理由を聞いたところ、「その他」の回答割合が高かった。

目的達成度が低い理由(複数回答)



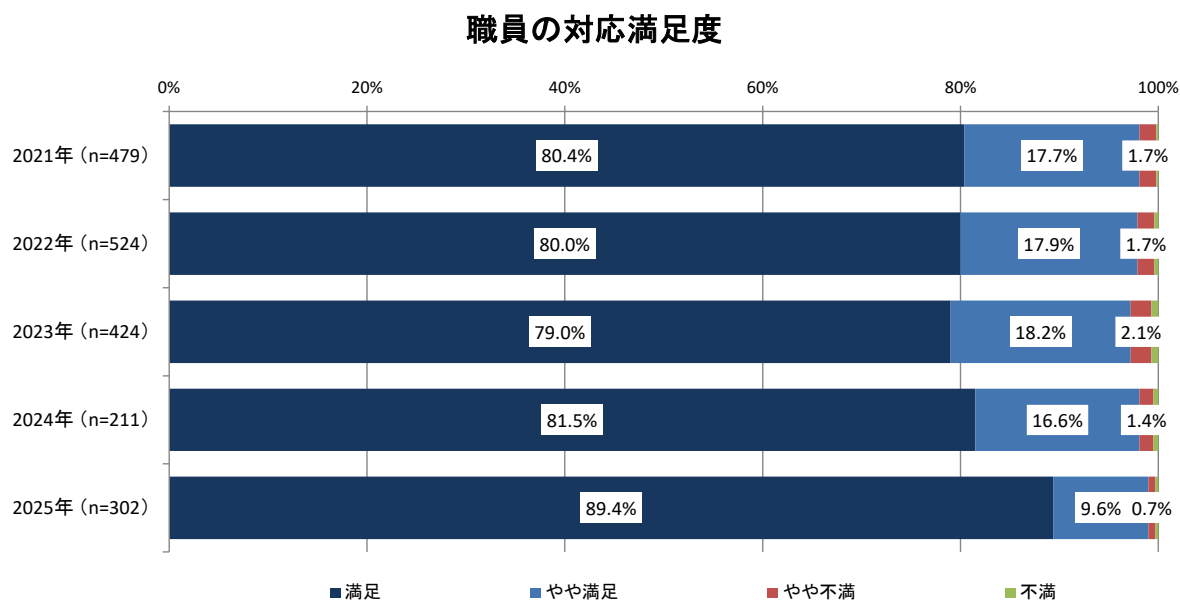
依頼試験を利用後、製品化に至ったかについては、「製品化した」が 43.3%、「近い将来(1年程度)製品化する予定である」が 17.7%、「まだ製品化していない」が 38.9%となっている。経年変化をみると、「製品化した」は 2024 年と比べ 8.7 ポイント減少している。

製品化状況



(2) 依頼試験

依頼試験の職員の対応満足度については、「満足」の回答割合が 89.4%、「やや満足」が 9.6%、これらを合計して 99.0%が満足と答えている。

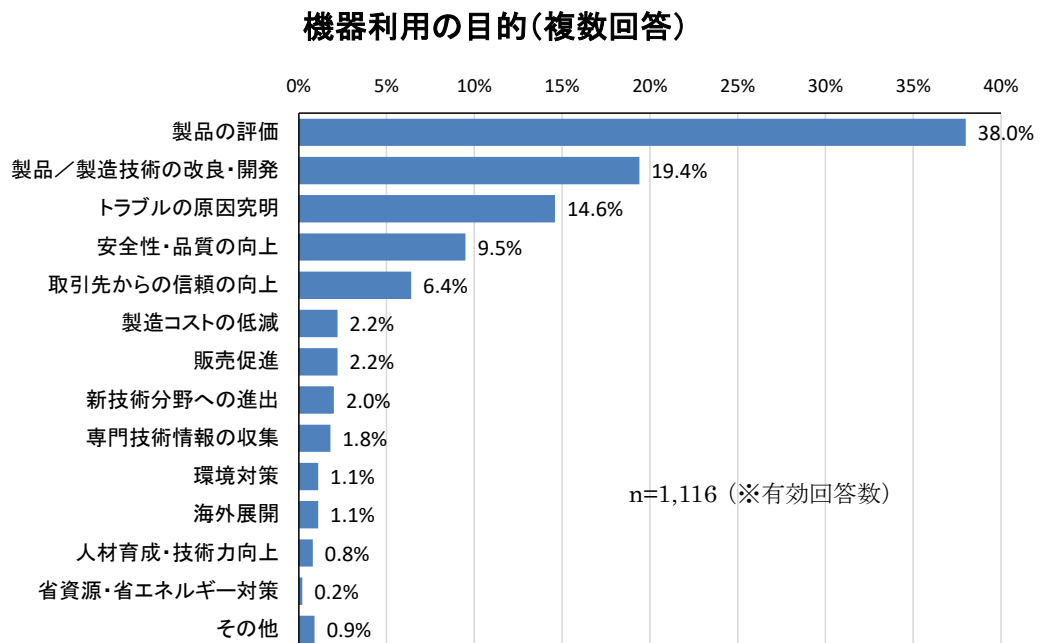


(3) 機器利用

(3) 機器利用

本設問では、「機器利用」事業について、その利用目的、目的達成度、職員の対応などについて、回答をいただいた。

機器利用の利用目的としては、「製品の評価」の回答割合が突出して高い。次いで、「製品/製造技術の改良・開発」、「トラブルの原因究明」の回答割合が高かった。また、「安全性・品質の向上」、「取引先からの信頼の向上」の回答割合も一定程度あった。

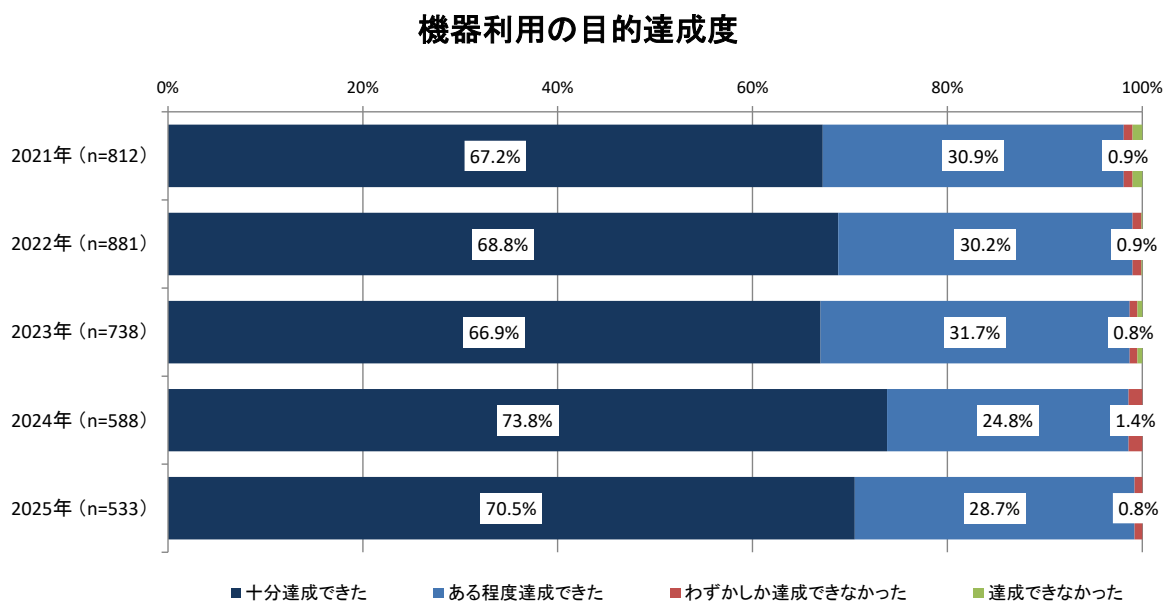


[その他の主な内容]

- ・特殊シミュレーションの依頼。
- ・部品管理ロット管理の為。
- ・曲げ強度測定
- ・大きなポスターを印刷
- ・試作品製作

(3) 機器利用

機器利用の目的達成度は、「十分達成できた」が70.5%、「ある程度達成できた」が28.7%となっている。99.2%の利用者が十分あるいはある程度、目的を達成している。経年変化をみると、「十分達成できた」は減少傾向、「ある程度達成できた」は増加傾向にある。



上述のような目的達成に関する具体的な成果について、282件のコメントをいただいた。成果の具体的な内容例は以下のとおり。

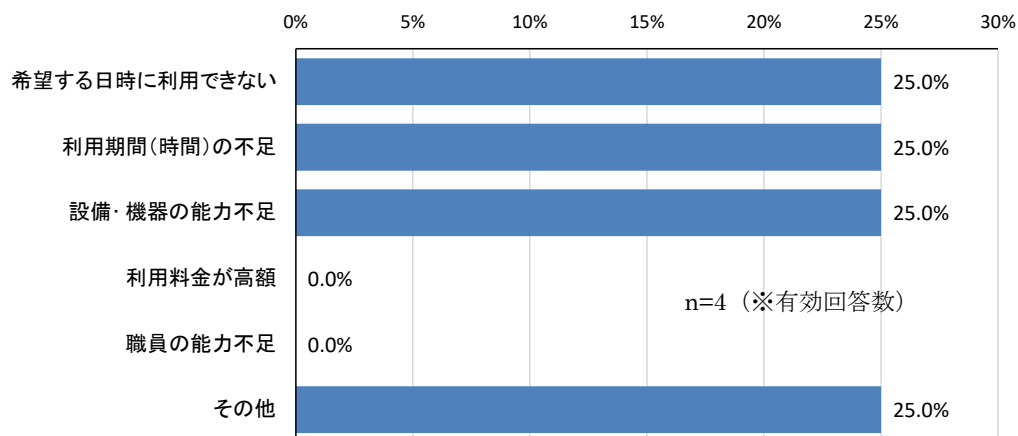
機器利用による成果の内容(回答内容から一部抜粋)

- 強度不足の原因が明確になり、次製品への改善のキッカケとなった。
- ゴム製品の材料電気測定を願いました。材料配合設計の特性値を実測し、検証しました。材料の信頼性が向上し、お客様に満足できる製品を提供できました。
- 強度試験により、製品の破壊と至る強度を測定することが出来た。
- 雷サージ試験など以前はできていた試験ができなくなり1か所で試験を完了させることができなくなった。使用可能機器が減ると、ほかの機関を使用せざるおえなくなる。
- 試験結果を取得し問題がないことを確認することで次の工程に進むことができた。
- 端末不具合が端末起因なのか環境起因なのかの切り分けを具体的に示すことで、静電気負荷状況下での端末の動作についてお客様へご理解いただけた。
- 試作したモータの駆動・制御回路とソフトについて負荷試験し妥当なデータが得られました。
- 専門知識の少ない社員でも操作説明後から検査作業するので最小人数で案件処理出来るメリットが大きい。
- コンプライアンス試験の事前確認ができ、本番試験を滞りなく行うことができた。

(3) 機器利用

目的達成度について、「わずかしか達成できなかった」、「達成できなかった」とした回答者に達成度が低い理由を聞いたところ、以下の回答割合であった。

目的達成度が低い理由(複数回答)

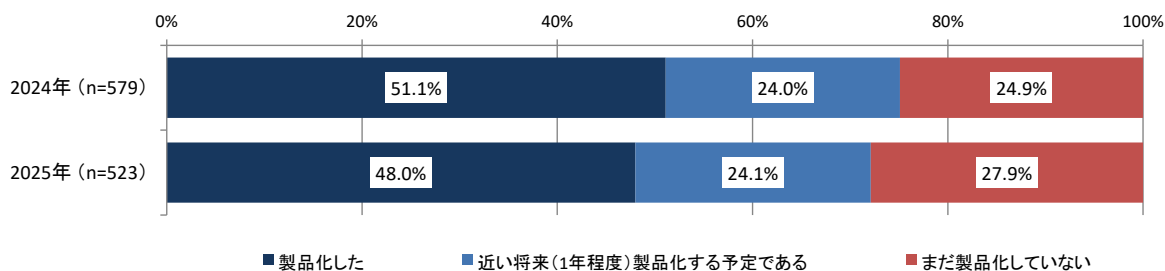


[その他の主な内容]

- ・目的達成に関して専門性の高い職員の関わりが浅い

機器利用を利用後、製品化に至ったかについては、「製品化した」が48.0%、「近い将来(1年程度)製品化する予定である」が24.1%、「まだ製品化していない」が27.9%となっている。経年変化をみると、「製品化した」は減少傾向にある。

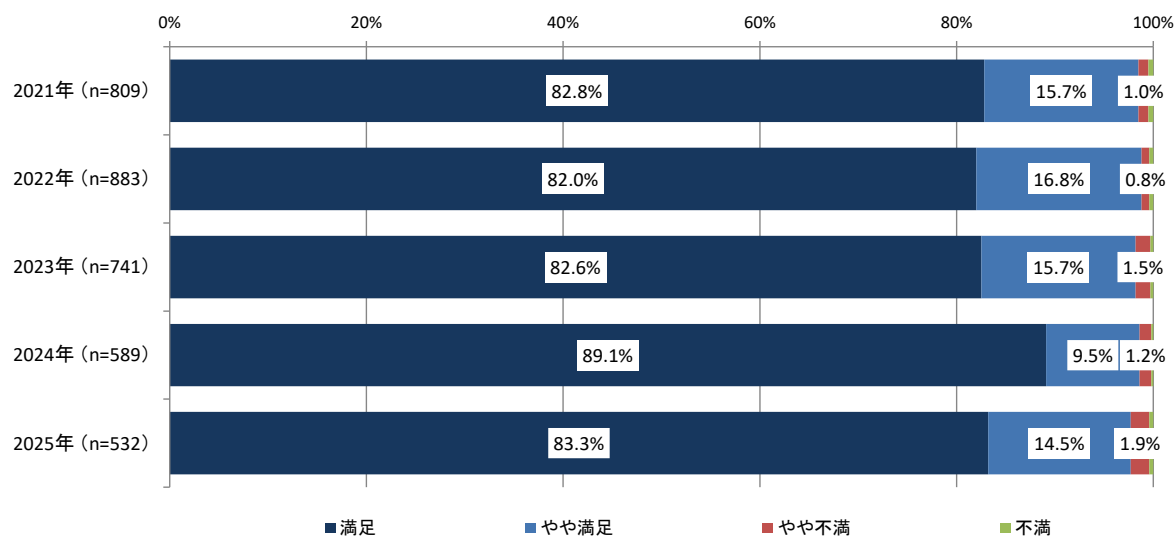
製品化状況



(3) 機器利用

機器利用の職員の対応満足度については、「満足」の回答割合が 83.3%、「やや満足」が 14.5%、これらを合計して 97.8%が満足と答えている。経年変化をみると、「満足」は増加傾向にある。

職員の対応満足度



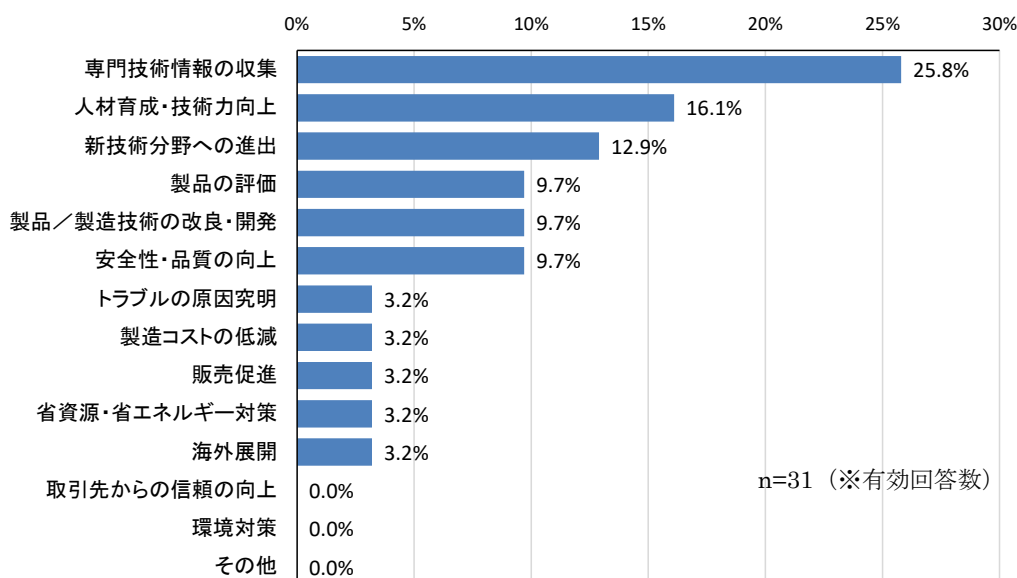
(4) 講習会・技術セミナー

(4)講習会・技術セミナー

本設問では、「講習会・技術セミナー」事業について、その利用目的、目的達成度、職員の対応などについて、回答をいただいた。

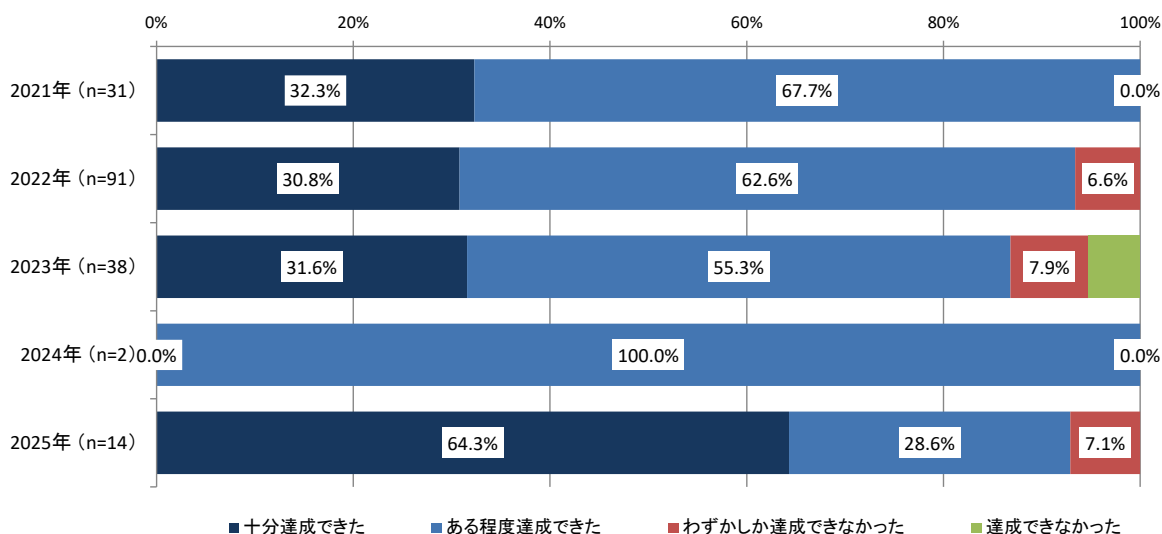
講習会・技術セミナーの利用目的としては、「専門技術情報の収集」、「人材育成・技術力向上」、「新技術分野への進出」などの回答割合が高かった。

講習会・技術セミナーの目的(複数回答)



講習会・技術セミナーの目的達成度は、「十分達成できた」が64.3%、「ある程度達成できた」が28.6%となっており、90%以上の利用者が十分、またはある程度、目的を達成している。経年変化をみると、「十分達成できた」の回答割合が増加している。

講習会・技術セミナーの目的達成度



(4) 講習会・技術セミナー

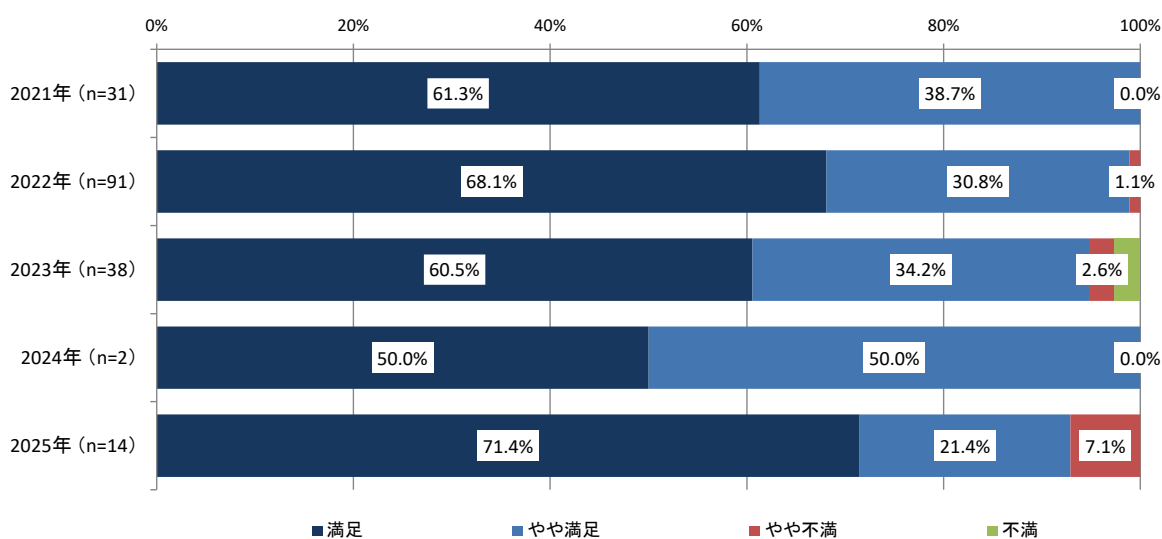
目的達成に関する具体的な成果について、7件のコメントをいただいた。成果の具体的な内容例は以下のとおり。

講習会・技術セミナーによる成果の内容(回答内容から一部抜粋)

- 講習会の中での質疑応答により、社内の課題に対する今後の対応へのヒントが得られた。
- EMC 試験について理解が深まりました。また、実際の試験利用時に活かされました。
- 知識の向上に役立ちました。
- EV 業界の最新動向、無接点給電の技術について知ることができました。
- 有益な製品分析に繋がりました。

講習会・技術セミナーの職員の対応満足度については、「満足」の回答割合が71.4%、「やや満足」の回答割合が21.4%となっている。

職員の対応満足度



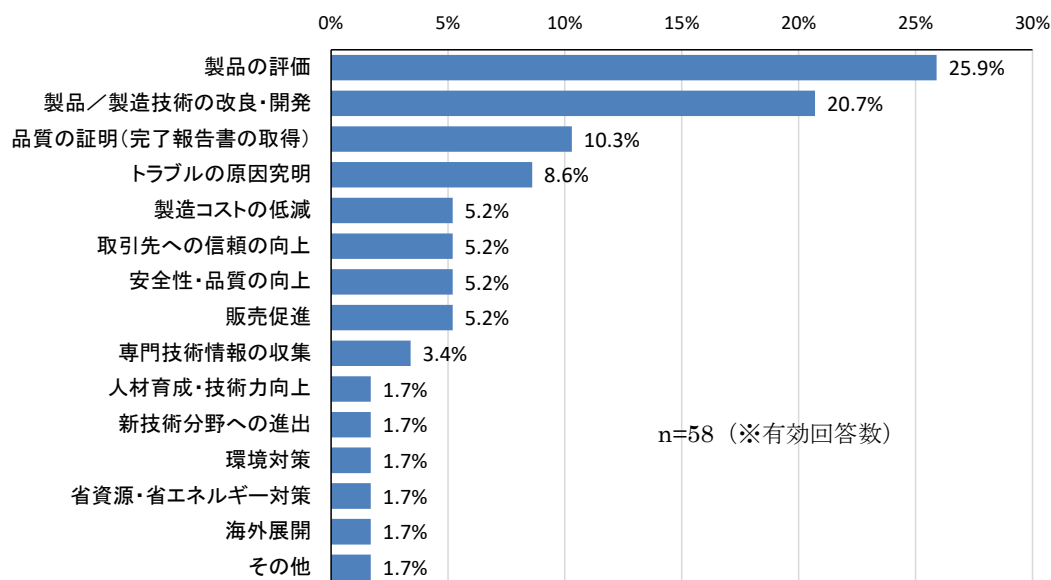
(5) オーダーメイド型技術支援

(5)オーダーメイド型技術支援

本設問では、「オーダーメイド型技術支援」事業について、その利用目的、目的達成度、職員の対応などについて、回答をいただいた。

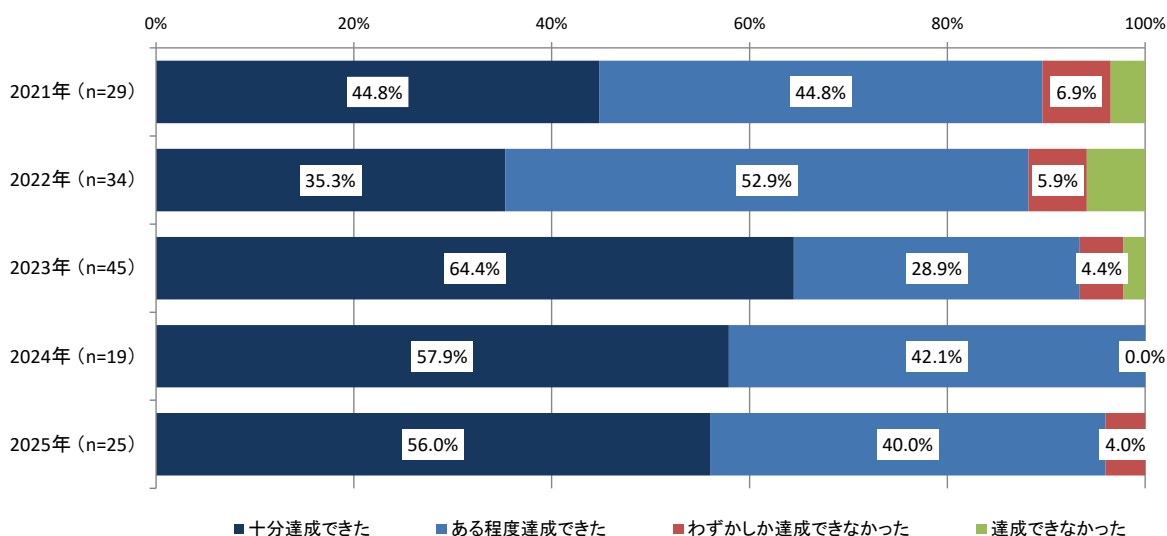
オーダーメイド型技術支援の利用目的としては、「製品の評価」、「製品/製造技術の改良・開発」の回答割合が高い。次いで、「品質の証明」などの回答割合が高かった。

オーダーメイド型技術支援の目的(複数回答)



オーダーメイド型技術支援の目的達成度は、「十分達成できた」が56.0%、「ある程度達成できた」が40.0%となっており、95%以上の利用者が十分あるいはある程度、目的を達成している。経年変化をみても、各年とも目的を達成している割合が高い。

オーダーメイド型技術支援の目的達成度



(5) オーダーメイド型技術支援

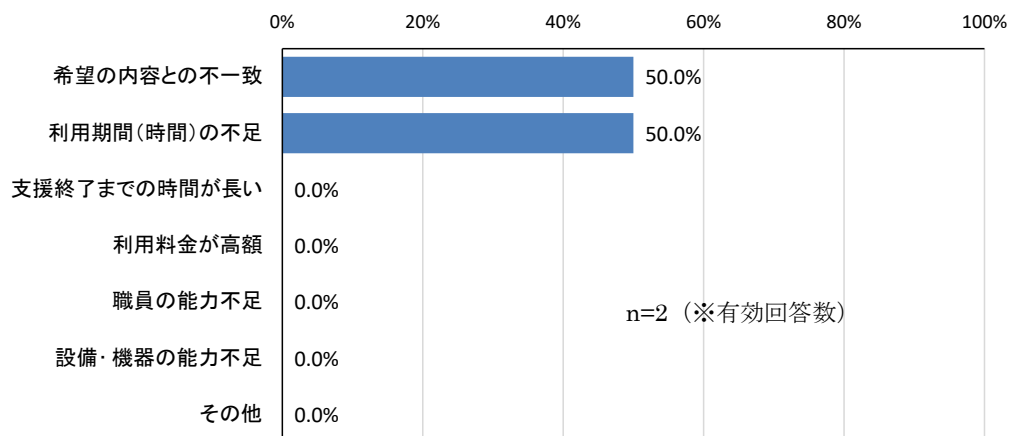
目的達成に関する具体的な成果について、13件のコメントをいただいた。成果の具体的な内容例は以下のとおり。

オーダーメイド型技術支援による成果の内容(回答内容から一部抜粋)

- 一部販売出来た。
- ベンチマーク調査を行い、新製品開発の参考とすることができた。
- 隙間を縫って、時間や装置のセッティングも頂き、大いに弊社の改善にご指導を頂きました。(直流電源と熱の発生)
- 既存のUVランプと新UVランプとの比較・評価を目的として、両者の発光スペクトル分布を計測するにあたり、オーダーメイド型技術支援の枠組みより、適切な計測のアイデアとアドバイスをいただきました。その結果として、弊社として望むところの結果(データ)を得る事が出来ましたので、今回の対応につきまして深く感謝しております。

目的達成度について、「わずかしか達成できなかった」、「達成できなかった」とした回答者に達成度が低い理由を聞いたところ、以下の回答割合であった。

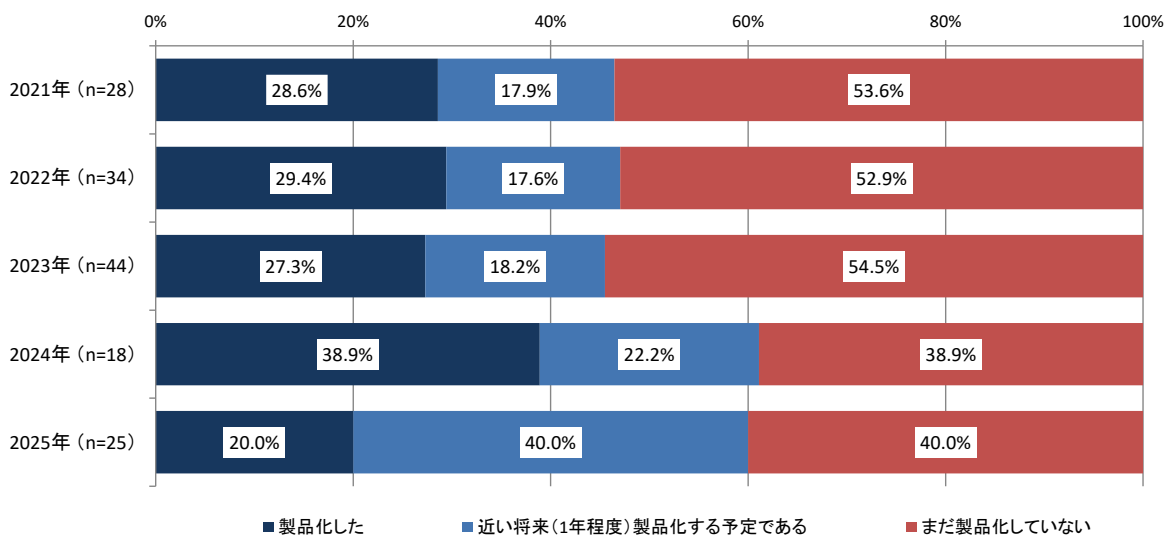
目的達成度が低い理由(複数回答)



(5) オーダーメイド型技術支援

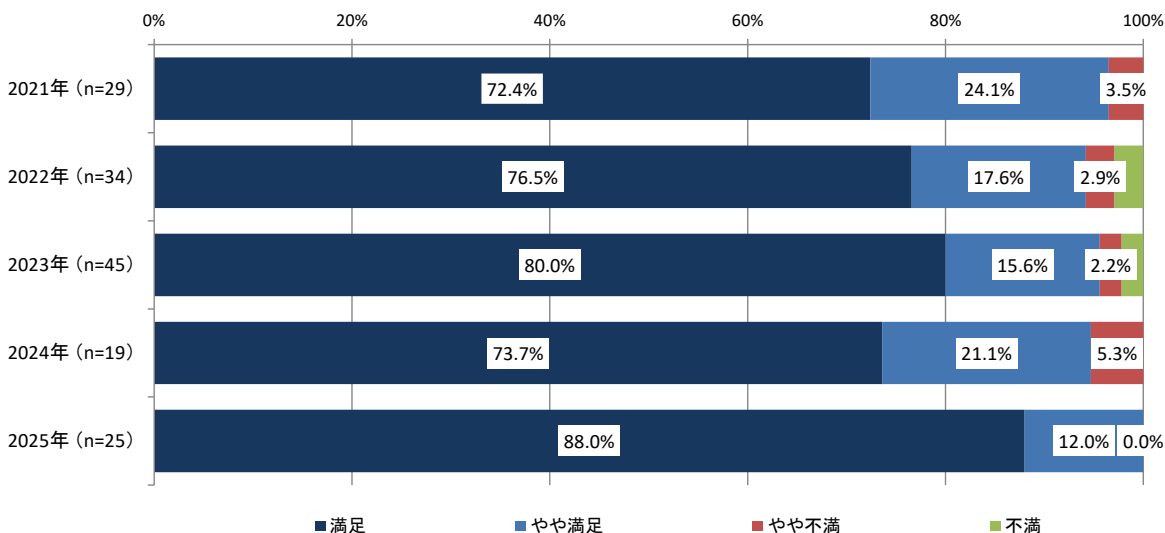
オーダーメイド型技術支援後の製品化状況をみると、「製品化した」の回答割合は20.0%、「近い将来製品化する予定である」の回答割合は40.0%であった。経年変化をみると、前回調査時より製品化した割合は減少傾向にある。

製品化状況



オーダーメイド型技術支援の職員の対応満足度については、「満足」の回答割合が88.0%、「やや満足」が12.0%となっている。経年変化をみると、満足している回答割合が増加している。

職員の対応満足度



利用事業に対する意見・要望について、341件のコメントをいただいた。

利用事業に関するご意見・ご要望の内容(回答内容から一部抜粋)

- 商品化を目的に、自社ではテストするすべがなく、当研究センターの利用はとても重要で、今後も確認すべく物性値やテストを利用したいと考えております。中小企業にとっては大いに利用する価値あり、必須の研究センターです。
- 短時間で広範な技術のポイントを体系的に学ぶことができ、たいへん有意義な講習でした。こうした機会があることは、より多くの技術者に知ってもらいたいと思います。
- 試験機のPCの立ち上げ方法(アイコンの場所)をお聞きしただけなのに、職員の指導料を支払うこととなった。(ほんの1分程度)話しかけただけで料金が発生するというのは、試験機の使用時の安全面も含め、臨機応変に対応してほしい。
- 簡易SEMは使いやすく、早く試料を観察出来て助かります。元素分析のオプションもあるようですが、そのオプションも使えると腐食等の分析で助かります。
- ヒートサイクル試験として電源装置を利用しましたが、試験スペースが狭かったためもう少し広いスペースが有ると試験しやすくなります。現在の2倍程度のスペースが欲しいです。
- IP 試験において、防水はあるが防塵についても取り扱いを検討して欲しい。山梨にあったが利用停止になりましたし、民間で借りると非常に高額なため試験しにくいので困っております。宜しくお願いします！
- 弊社が希望する形式でのレポート発行は難しいとのことでしたので、正式な検査は別の検査機関に依頼することになりますがコストがお安く、即日で結果が出るので、これからも本試験の前の事前検査としてご利用させていただきたいと思っています。
- マイクロ X 線について機器も新しくなり、使い勝手もよくなり測定時間が短縮されました。
- 会社のシステム上、”お支払いしてから、データを受領”というのが非常に手間がかかるので、データ受領後お支払い という対応ができるとなおよかったです。

【事業の比較まとめ】

- ・利用目的は、「講習会・技術セミナー」を除くすべての項目で「製品の評価」が上位に入っている。
- ・目的達成度は、全ての事業で90%以上となっている。
- ・達成度が低い理由は、利用事業毎に異なっている。
- ・職員の対応の満足度は、全ての事業で90%以上となっている。

事業の比較まとめ

		技術相談	依頼試験	機器利用	講習会・技術セミナー	オーダーメイド型技術支援
利用目的上位3項目		<ul style="list-style-type: none"> ・製品の評価 ・品質の証明(試験方法に関する事前相談) ・トラブルの原因究明 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の評価 ・品質の証明(試験報告書の取得) ・トラブルの原因究明 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の評価 ・製品/製造技術の改良・開発 ・トラブルの原因究明 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門技術情報の収集 ・人材育成・技術力向上 ・新技術分野への進出 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の評価 ・製品/製造技術の改良・開発 ・品質の証明(完了報告書の取得)
目的達成度	十分達成+ある程度達成	94.4%	99.0%	99.2%	92.9%	96.0%
	わずかしか達成できない+達成できない	5.6%	1.0%	0.8%	7.1%	4.0%
達成度が低い場合の理由上位3項目		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の能力不足 ・結果が得られるまでの時間が長い ・回答が不十分 <p style="text-align: right;">n=28</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・機器の能力不足 ・試験終了までの時間が長い ・利用期間(時間)の不足 <p style="text-align: right;">n=3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する日時に利用できない ・利用期間(時間)の不足 ・設備・機器の能力不足 <p style="text-align: right;">n=4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日程・時間が不相当 <p style="text-align: right;">n=1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の内容との不一致 <p style="text-align: right;">n=1</p>
職員の対応	満足+やや満足	95.9%	99.0%	97.8%	92.8%	100.0%
	やや満足+不満	4.0%	1.0%	2.3%	7.1%	0.0%

2.3. 都産技研の利用による経済的効果について

都産技研の利用により得られたと思われる経済的効果の金額換算について、「コストの削減」、「売上/利益の獲得」、「将来的なメリット」の3つの項目に分けて質問をした。各項目の内容については以下のとおりである。

「コストの削減」

- ・効果的なアドバイスを受けたことで、開発時間・労力を削減できた。など

「売上/利益の獲得」

- ・依頼試験により海外認証を取得し、製品の売上が見込める。など

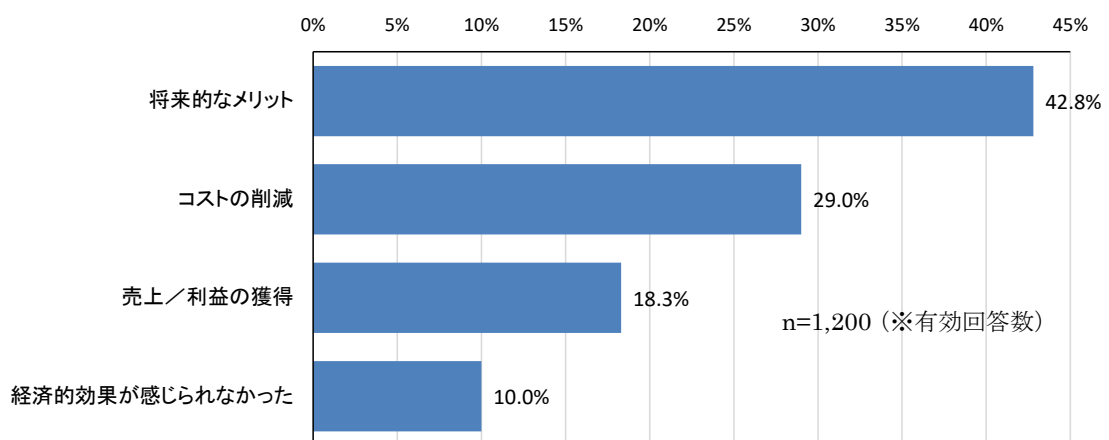
「将来的なメリット」

- ・不具合の原因究明ができたため、欠陥に起因する損失を回避することができた。など

都産技研の利用によって得られた経済的効果は「将来的なメリット」の割合が高く、次いで「コストの削減」、「売上/利益の獲得」となっている。

一方、「経済的効果が感じられなかった」の回答割合は1割となっている。

都産技研の利用によって得られた経済的効果(複数回答)



一企業あたりの経済的効果額を以下の試算によって算出した。その結果、一企業あたりの経済的効果額（※1）は483万円となっている。

経済的効果額の回答内訳(複数回答あり)

	金額	換算金額	合計
回答	0円	0円	120
	0円超～50万円	25万円	273
	50万～100万円	75万円	169
	100万～300万円	200万円	141
	300万～500万円	400万円	78
	500万～1,000万円	750万円	73
	1,000万～3,000万円	2,000万円	42
	3,000万～5,000万円	4,000万円	13
	5,000万～1億円	7,500万円	16
	1億円超	1億円	6
有効回答数			931
経済的効果額			44億9,650万円
一企業あたりの経済的効果額			483万円/企業
利用企業全体での経済的効果額		9622社（※2）	464億7,188万円

（※1）「コストの削減」、「売上/利益の獲得」、「将来メリット」による経済的効果額については、以下に記載の計算にて同様に算出

（※2）2025年に都産技研の業務系データベースに登録されている企業数

以下に、一企業あたりの経済的効果額および利用企業全体での経済的効果額の算出について記載する。

①各レンジの換算値について

「0円超～50万円」への回答は25万円	} として、全体の加重平均を算出する
「50～100万円」への回答は75万円	
⋮	
「1億円超」への回答は1億円	

②経済的効果の算出

$$\begin{aligned}
 \text{経済的効果額} &= (25 \text{万円} \times 273 \text{件}) + (75 \text{万円} \times 169 \text{件}) + (200 \text{万円} \times 141 \text{件}) \\
 &\quad + (400 \text{万円} \times 78 \text{件}) + (750 \text{万円} \times 73 \text{件}) + (2,000 \text{万円} \times 42 \text{件}) \\
 &\quad + (4,000 \text{万円} \times 13 \text{件}) + (7,500 \text{万円} \times 16 \text{件}) + (1 \text{億円} \times 6 \text{件}) \\
 &= 44 \text{億} 9,650 \text{万円}
 \end{aligned}$$

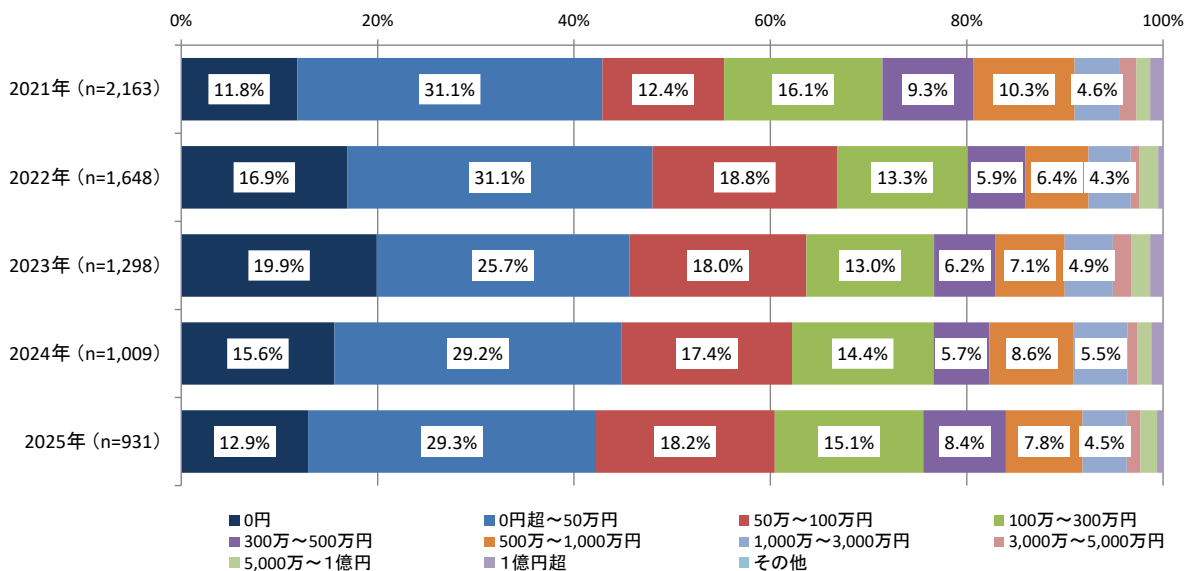
$$\text{一企業あたりの経済的効果額} = 44 \text{億} 9,650 \text{万円} \div 931 \text{件 (有効回答数)} = \text{約} 483 \text{万円/企業}$$

$$\text{利用企業全体での経済的効果額} = 483 \text{万円} \times 9,622 \text{社 (※1)} = \text{約} 464 \text{億円}$$

（※1）2025年に都産技研の業務系データベースに登録されている企業数

有効回答数に対する経済的効果額の内訳を見ると、「0円」の回答割合が12.9%、「0円超～50万円」の回答割合が29.3%、以下同様に、「50万～100万円」が18.2%、「100万～300万円」が15.1%、「300万～500万円」が8.4%、「500万～1,000万円」が7.8%、「1,000万～3,000万円」が4.5%となっている。

有効回答数に対する経済的効果額の内訳



経済的効果についての具体的なコメント(回答内容から一部抜粋)

「コストの削減」

- 利用回数が指折り程度のため低額ですが、民間のコンサルに比べると安価に対応頂け、専門的な知識を短時間で取得出来た事もメリットと感じている。
- お試しで測定し、分析機器を導入するかの判断に使用させて頂いたり、高額な機器を導入せずに使用することができ、とても助かっている。
- 分析装置を購入すると高額なため、スポット的な分析を依頼し、有効なデータを取る事が出来た。
- 機器利用にて開発基板に問題ないことを確認出来たため、設計変更・基板の再製造をせずに済みました。
- 他の機関で評価を実施した場合にはもっと高額な費用が発生するが、少額での評価が実施できた。
- 製品不具合を減らすことにより、ロスコストが減らせるため、事業価値を高めることにつながられました。
- 以前は試作型を製作して製品検証を行っていたが、3D プリンターの利用により、試作型を製作せずに検証が可能となり、試作費用の削減に繋がった。
- 担当職員の経験とアドバイスから、自社にて FRP ボディ制作の型制作及び製品制作に舵をきることになった、大きな発想の転換点である。また、型の制作費 400~800 万を大幅に削減できることになった。

「売上/利益の獲得」

- マグネットバッジの強度が基準を満たしている事が確認でき、希望していた案件を獲得することが出来ました。
- 当社の基幹業務である標識基板製造に関し、貴機関での性能評価試験は必須であり、年間売上約 4 億円を支える大きな裏付けとなっています。
- 客先への技術開発力、サポート力の PR と、それによって新製品開発の受注が決まったこと。
- 電力設備において使用部品変更を行ったが、貴センターでの試験により性能が担保されていることが分かったため、部品変更後の装置が販売可能となった。

「将来メリットの獲得」

- 視野を広げる事で複数の素材を活用して、新しい製品の開発に繋げる事が出来た。
- 機器の性能が十分でないことが判明した。それにより改良を加えることで、機器の完成度が向上し、販売台数を増やすことができると考えている。
- 機器利用で、強度対策が必要な部品の対策前と対策後の比較が出来、対策の有効性が確認出来た。

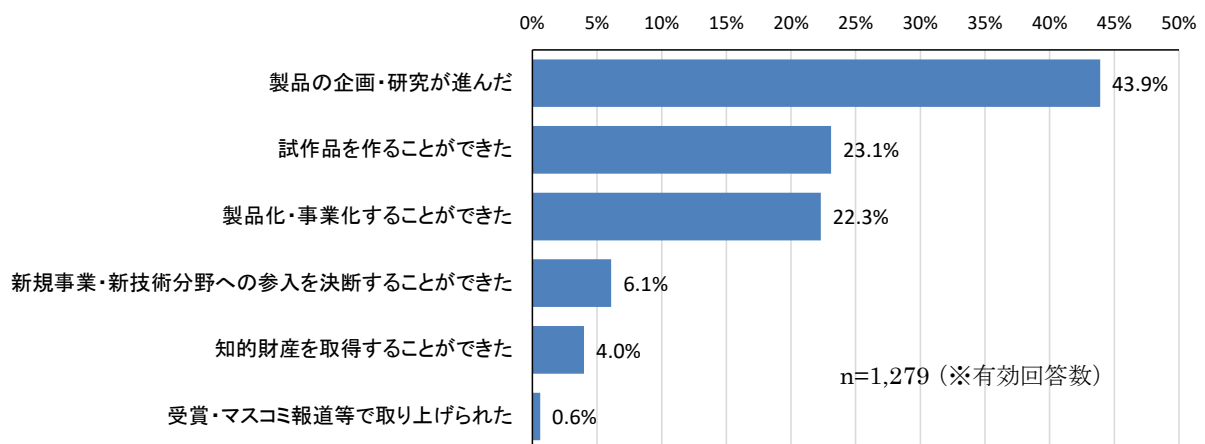
2.4. 都産技研の利用による事業効果について

本設問では、都産技研利用が寄与した企業事業の進展効果について回答いただいた。

【製品開発において】

都産技研利用による製品開発分野における寄与としては、「製品企画・研究が進んだ」の回答割合が高く、次いで「試作品を作ることができた」、「製品化・事業化することができた」、の回答割合が高い。また「新規事業・新技術分野への参入を決断することができた」、「知的財産を取得することができた」の回答割合も一定程度あった。

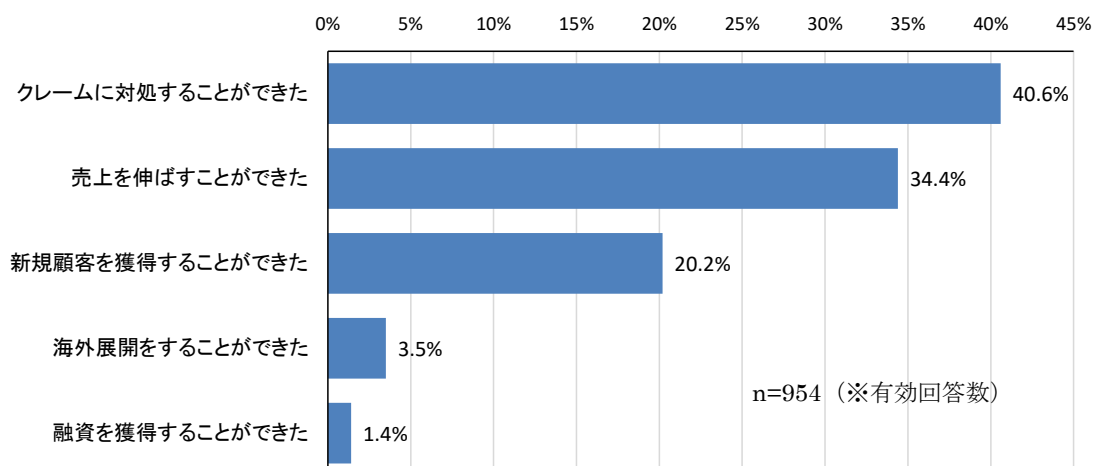
製品開発における事業効果(複数回答)



【販路拡大において】

都産技研利用による販路拡大分野における寄与としては、「クレームに対処することができた」が最も多く、次いで「売上を伸ばすことができた」の回答割合が高い。また「新規顧客を獲得することができた」の回答割合も一定程度あった。

販路拡大における事業効果(複数回答)



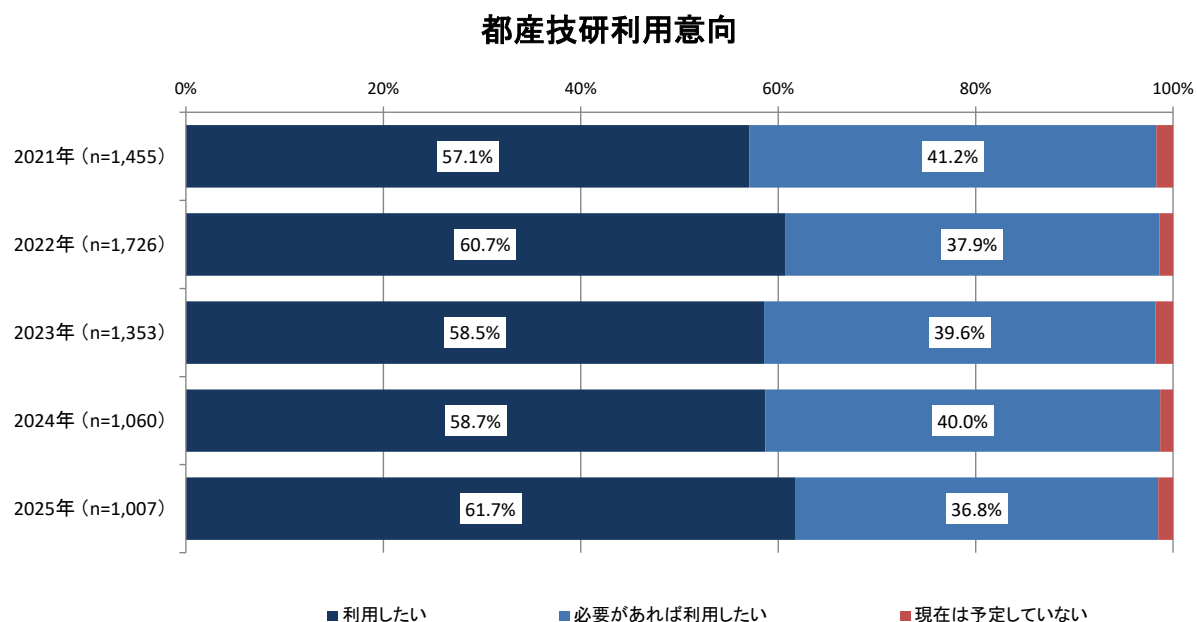
事業効果の具体的内容については、381件のコメントをいただいた。

事業効果の具体的内容(一部抜粋)

- 消費者は常に新しい商品をさがしています。信頼性の高い商品は自然と他の消費者へ拡がり、売上の安定につながります。
- 製品のエビデンスを獲得し、カタログ等に性能表示することができた。
- 外注先から提供されるサービスの品質チェックに有効、外注先だけでは踏みこむことが難しい高度な判断に有効。
- 社内に試験機器を持ち合わせていない場合、比較的リーズナブルな価格で機器を拝借でき助かります。所望の値が得られなくても、開発を見直してまた計測できる価格帯だと思います。
- 注意すべき点がわかったので、それを回避するように開発を進められた。
- 海外プロジェクトのRFQ対応において、公的機関による評価データを提示できたことによる、案件受注。
- 試験対象となった製品前段階のプロトタイプを製品化できた。また、他社への信頼を現す汎用的な試験を行うことができた。
- 技術サービスでは試料(岩石・鉱物)の正確で詳細な情報が提供できることが大切です。個人経営では導入不可能な装置を使用させていただいたので、顧客に要望に、より適切に応えられたかと思っています。また、情報の蓄積という点でも重要かと思っています。
- 想定する製品の使用方法であれば破損・破壊などの不具合は起きないので、クレームの要因を一つ減らすことができ、製品化の話が進んだ。
- 東京都立産業技術研究センターの依頼試験を活用し、第三者評価データを取得できたことで、当社の機能性めっき技術の信頼性が大きく向上しました。
- 製品を構成するキーパーツの信頼性を試験で実証したことにより、類似パーツを含む製造方法を確立できた。
- カビや臭いの知見が深まったのと、分析する事で改善や予防策を取れるので、対処しやすくなりました。
- モノづくりの基礎となる精密装置の設置レベル調整を誰でも(全自動)数分間で完了するというこれまでに無い製品をリリース出来ました。当社の技術力誇示はもちろん、産業界の熟練者不足という基礎ニーズに応えた製品で今後の普及、応用機器の広がり大きな期待が持てます。産技研様からの表彰、地元金融機関からの表彰と社会的な評価も頂き、弊社企業価値の向上にもなりました。

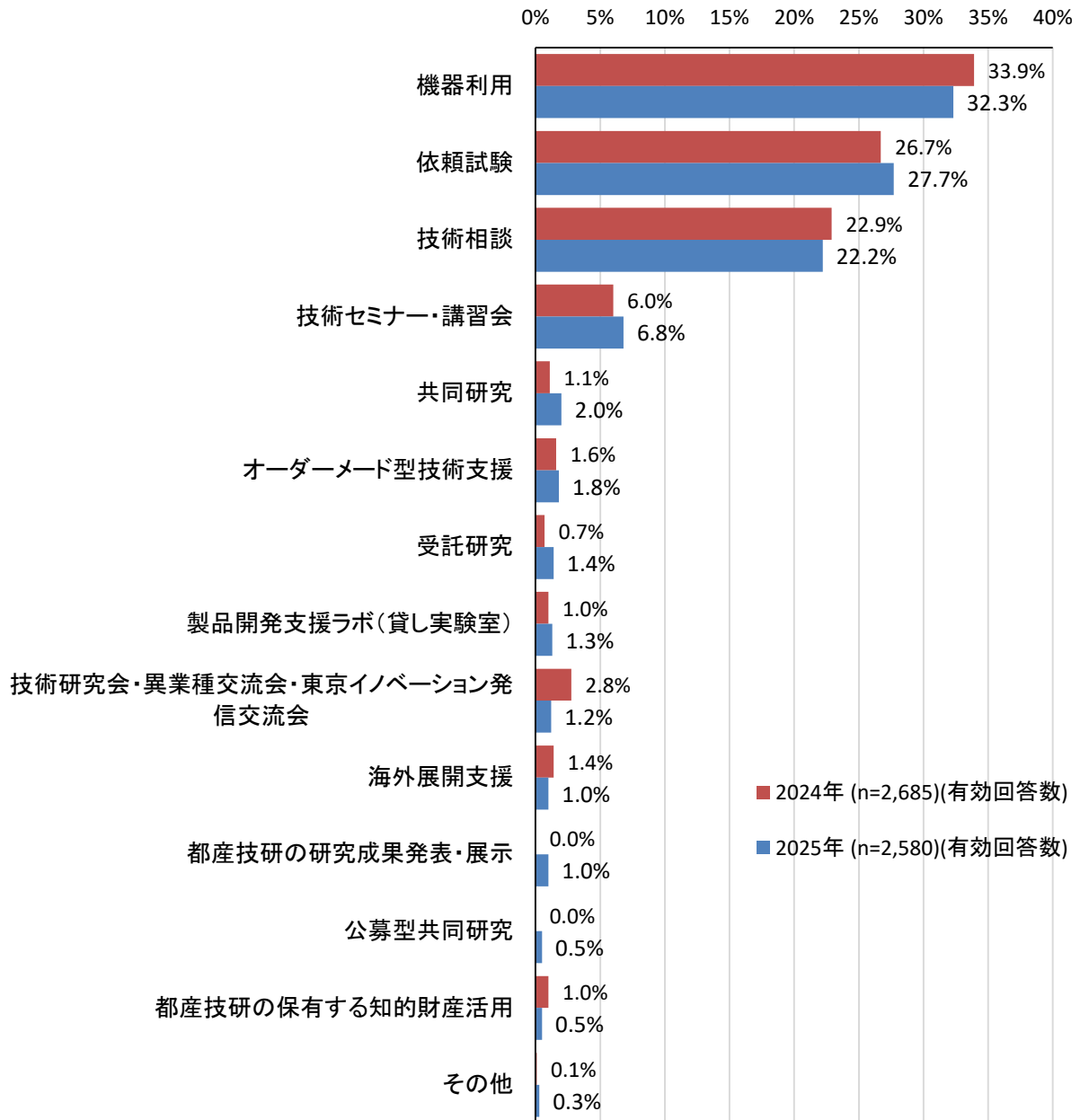
2.5. 今後の利用意向及び要望について

今後も都産技研を利用したいかどうか聞いたところ、「利用したい」の回答割合が 61.7%、「必要があれば利用したい」の回答割合が 36.8%であった。経年変化をみると、同様の回答傾向が続いている。



利用を希望する具体的な事業・サービスについて聞いたところ、「機器利用」、「依頼試験」、「技術相談」の回答割合が高かった。「セミナー・講習会」との回答割合も一定程度あった。

利用希望サービス(複数回答)

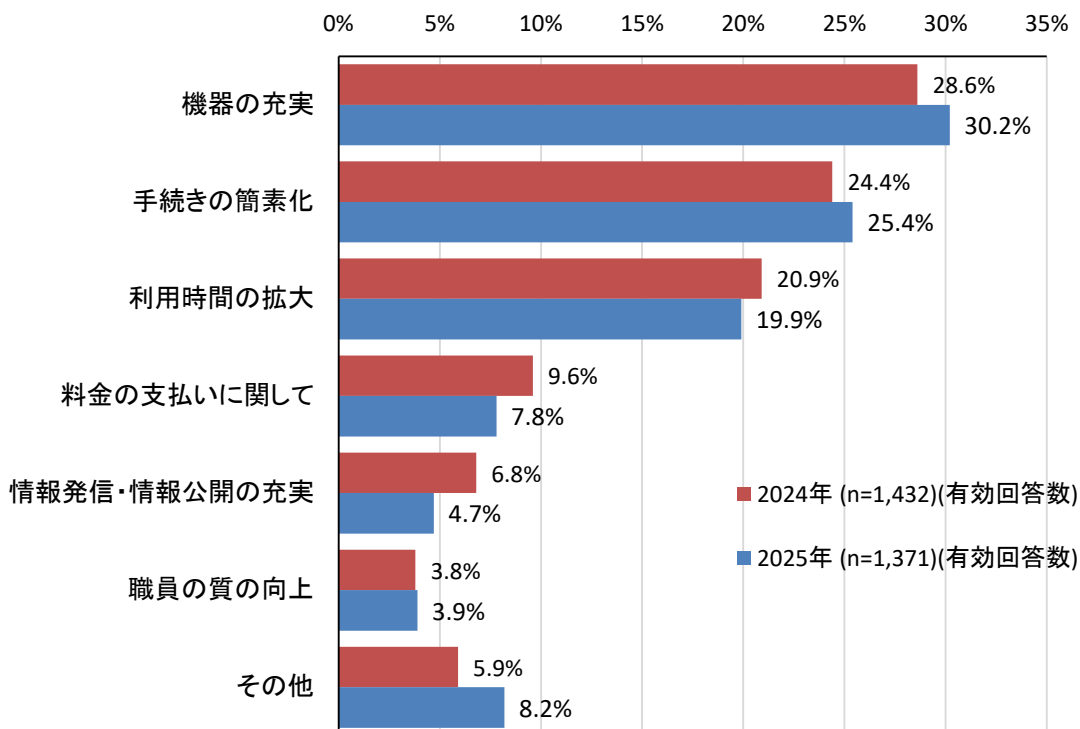


[その他の主な内容]

- ・アルミ材についての勉強会があれば参加したい。知見を伺いたいです。(アルミ金型製作)
- ・A I、機械学習に関するセミナーを開催して頂ければ参加したい。小企業にとってA I 関連の技術取得は難しい。

また、都産技研の運用面での要望では、「機器の充実」の回答割合が最も高い。次いで、「手続きの簡素化」、「利用時間の拡大」の回答割合が高かった。経年変化をみていくと、「機器の充実」の割合が増加している。

運営面への要望(複数回答)



運営面の要望については、104件のコメントをいただいた。

運営面への要望についての具体的なコメント(回答内容から一部抜粋)

- Webで予約可能時間を確認出来たり、オンラインで予約申込出来ると、とても便利。(機器利用)簡易F T - I Rはそれで予約しているが、とても良い。ありがたい。
- 貴社のセミナーは大変参考になり、ぜひ利用させて頂きたいので、様々な分野のセミナーを引き続き開催して頂きたいです。
- 安価に依頼分析、機器利用させて頂け、必要時に非常に有効的に案件を進める事が出来ています。物価高・人件費の高騰もありますが、今後も大きな値上げなく利用出来る事を望みます。
- データの印刷送付についてはサービス不要。その代わりにデータロギング設備やセンサーや治具を増やして欲しい
- 委託試験時には立ち会いも不可。ということについては、現場を見れないので、試験の実施自体への信頼性が落ちる。試験は、規格で規定されている試験ばかりではない。柔軟な対応をしていただきたい。
- 顧客から検証を求められることがあるが、すぐの対応ができないため納期までに間に合わない。もっと短い期間で利用できるようにして欲しい。
- 製薬や医療機器業界では、省令(GMP、GLP)や規定(ISO等)に則ったデータの取り方をしなければならぬので、対応いただけると助かります。

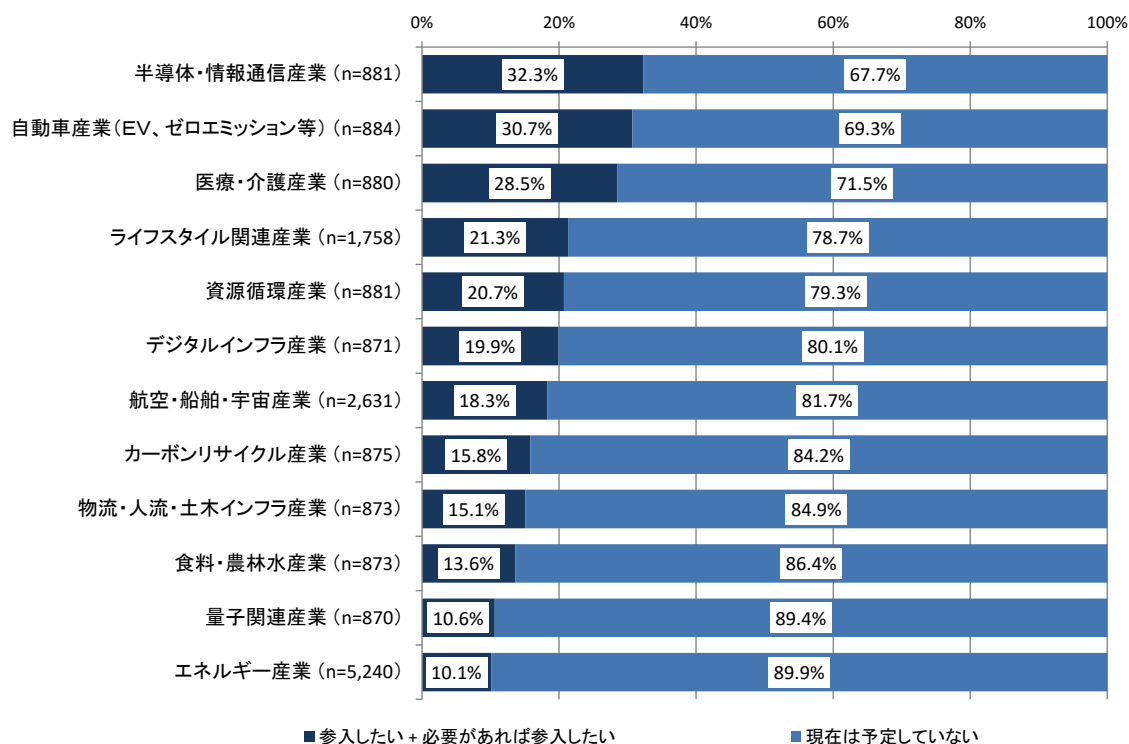
2.6.参入予定分野について

本設問では、「参入・事業拡充の意向がある成長産業分野」について聞いた。

【参入予定のある分野】

将来的に参入・事業拡充したい成長産業分野については、「半導体・情報通信産業」の割合が最も高く、次いで「自動車産業」「医療・介護産業」の回答割合が高くなっている。

参入意向(参入したい+必要があれば参入したいの割合)(複数回答)



※エネルギー産業は、「洋上風力産業」+「次世代太陽光産業」+「水素産業」+「燃料アンモニア産業」+「次世代熱エネルギー産業」+「原子力産業」の合算値

※航空・船舶・宇宙産業は、「船舶産業」+「航空機産業」+「宇宙関連産業」の合算値

※ライフスタイル関連産業は、「住宅・建築物産業」+「ライフスタイル関連産業」の合算値

参入予定分野へ参入にあたっての課題や要望については、198 件のコメントをいただいた。

参入予定分野へ参入にあたる 課題や要望についての具体的なコメント(回答内容から一部抜粋)

- 3Dプリンター（樹脂材）を利用した金型製作の試験 e t c。
- ペロブスカイト太陽電池の利用拡大のための試作・製品化の援助。
- 生コンの残コン、戻りコンを減少させ、再利用する技術。
- たとえば、ビル内で野菜栽培の技術。太陽光発電や廃棄物発酵熱やその肥料を活用。
- 自動車の CASE 技術導入での新規分野への取組みと、従来技術を進化・深化させるべき製品の試験評価ニーズへの対応。
- 遠心 casting で製作したアルミニウム円筒形管体・リング部品の真空度計測。
- 電動バルンサの導入でメリットが出せる業界に進出したい。現在は、自動車組立、自動車部品を中心に機械産業全般の市場に電動バルンサを供給しているが、土木・建設関係や造船、航空・宇宙産業にも様々な用途があると思っています。
- 産業分野というよりも「安全・安心」を必要とする部門といったところでしょうか。
- AI や画像処理、ロボティクス、自動化に関わる産業について、新規事業で参入するための障壁が大きい。技術的なご指導や、企業間の連携など、機会があれば積極的に対応したいです。

2.7. 情報提供について

都産技研のホームページやメールニュースに対しては、113 件のコメントをいただいた。

情報提供についての意見・要望の内容(回答内容から一部抜粋)

- 依頼したい試験の詳細を知りたい際、web のどこから入っていけば良いのか分からない事がある。依頼試験とその詳細がひも付けされるようお願いしたい。
- 機器利用の問い合わせに対して、担当者が不在、もしくは在宅勤務の場合、後日にならないと回答されないのは問題。オンラインで管理して、すぐに回答できる様にすべき。(いつまで電話対応なのか?)
- 毎回ではないですがたまに拝読します。特にセミナー関連は社内教育の一環としても使用させていただいております。
- 予約機器の場所が分かりにくい、建屋が違うのか場所が違うのか、部門が違うだけなのか。
- 送られてくる都産技研メールニュースは参考にさせて頂いています。環境関係の新動向について詳しく取り上げてくれることを希望します。例) PFAS の禁止物質追加動向など

3. 総括

本調査では、ご利用者の皆さまから数多くのご意見・ご要望をいただきました。都産技研ではこれらの結果を横断的な視点で考察し、課題を明確にした上で事業運営に反映させていきたいと考えています。

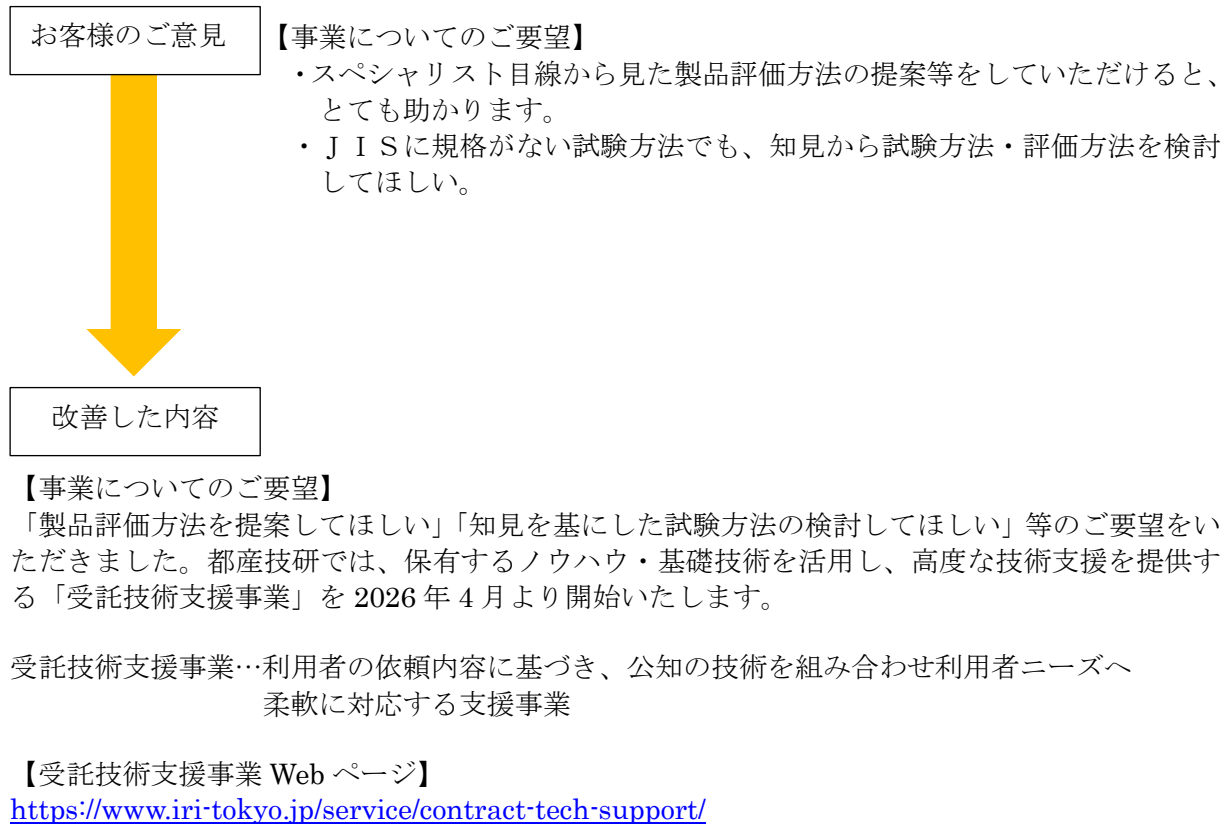
3.1. 利用者からのご意見・ご要望

本調査における自由意見から、利用者の皆さまのご意見・ご要望を分類し、以下の表にまとめました。

テーマ	項目	コメント（一部抜粋）
事業サービスの拡充に関する こと	分野の拡大 機器の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●VOC試験等の有機化合物の試験について相談したところ、未対応との事だったので、都産技研で対応できない試験の場合、他の候補を知っていた場合はアドバイスを頂きたい。 ●利用設備の更なる充実を希望します（モーター試験、バッテリー試験など）
	マニュアルの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ●よく使われる初心者用機器（EDX付き簡易SEM）でも分析の奥深さに驚きます。さしさわりのない分析事例、分離の難しい元素分析のマニュアル的事例等があると素人でも助かります。
既存事業サービスの効果的 提供に関する こと	料金	<ul style="list-style-type: none"> ●依安価で試験ができました。 ●放射妨害波測定の機器利用料金をもう少し安価にして欲しい
	職員の能力・対応	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の方に親切で丁寧なご指導及びプログラム測定の作成をしていただき、短時間で精度の高い測定が出来て大変感謝しております。 ●職員の方から専門的で適切なアドバイスが得られるのがありがたいです。コスト面でも中小企業にとってメリットが大きいです。今後も利用させていただきたいと思います。 ●多くの案件を1名の職員が担当されると大変忙しくなるので、その辺りをうまく分散できると共同制作や共同開発ができるのだらうと思います。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●HP上でネット予約がわかりづらいです。・受付システムが数名で行く時大変なので、事前に登録できるといいと思います。 ●本部へのバス便を増やしてほしい。 ●職員の休みが増えて施設を利用できる日や相談できる日が減ったのを改善して欲しい。

3.2. ご意見をもとに改善した例について

皆さまからいただいたご意見を基に改善した例をご紹介します。



参考資料

「2025年 ご利用に関するアンケート」

(※注)

アンケートの設問：3-1～3-5「ご利用の目的、達成度、職員対応などに関して」(P. 40～44)では、各種事業を利用された方のみを対象にアンケートを実施しています。

(例：2025年に技術相談と依頼試験のみを利用された方には、P. 42～44はお聞きしていません。)

3-4. 「技術セミナー・講習会」のご利用の目的、達成度、職員対応の満足度等に関してお答えください。

(3-1～3-5 はご利用いただいた事業分のみお送りしています)

<p>(1) 技術セミナー・講習会の参加目的</p> <p>※複数回答可</p>	<input type="checkbox"/>	製品の評価
	<input type="checkbox"/>	トラブルの原因究明
	<input type="checkbox"/>	製品／製造技術の改良・開発
	<input type="checkbox"/>	製造コストの低減
	<input type="checkbox"/>	取引先からの信頼の向上
	<input type="checkbox"/>	安全性・品質の向上
	<input type="checkbox"/>	人材育成・技術力向上
	<input type="checkbox"/>	専門技術情報の収集
	<input type="checkbox"/>	新技術分野への進出
	<input type="checkbox"/>	販売促進
	<input type="checkbox"/>	環境対策
	<input type="checkbox"/>	省資源・省エネルギー対策
	<input type="checkbox"/>	海外展開
	<input type="checkbox"/>	その他()
<p>(2) 技術セミナー・講習会の目的達成度</p> <p>※1つだけ回答</p>	<input type="checkbox"/>	1. 十分達成できた((4)へ)
	<input type="checkbox"/>	2. ある程度達成できた((4)へ)
	<input type="checkbox"/>	3. わずかしか達成できなかった((3)へ)
	<input type="checkbox"/>	4. 達成できなかった((3)へ)
<p>(3) (設問(2)目的達成度で3又は4を選択した場合のみ) 達成度が低いと感じた理由をお聞かせください。</p> <p>※複数回答可</p>	<input type="checkbox"/>	希望の内容との不一致
	<input type="checkbox"/>	講師の質
	<input type="checkbox"/>	日程・時間が不適當
	<input type="checkbox"/>	開催方法(オンライン等)が不適當
	<input type="checkbox"/>	利用料金が高額
<input type="checkbox"/>	その他()	
<p>(4) 受講をきっかけとして利用した都産技研のサービスがあれば、お聞かせください。</p> <p>※複数回答可</p>	<input type="checkbox"/>	技術相談
	<input type="checkbox"/>	依頼試験
	<input type="checkbox"/>	機器利用
	<input type="checkbox"/>	オーダーメイド型技術支援
	<input type="checkbox"/>	他の技術セミナー・講習会
	<input type="checkbox"/>	共同研究
<input type="checkbox"/>	その他()	
<p>(5) 具体的な成果があれば、お聞かせください。(社員の教育効果、製品改良や事業化事例など)</p> <p>※支障の無い範囲でご記入ください。</p>		
<p>(6) 技術セミナー・講習会時の職員の対応</p> <p>※1つだけ回答</p>	<input type="checkbox"/>	満足
	<input type="checkbox"/>	やや満足
	<input type="checkbox"/>	やや不満
	<input type="checkbox"/>	不満

3-6. ご利用した事業に関して、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

4. 都産技研をご利用されたことで得られた経済的効果についてお答えください。

(1) 都産技研ご利用によって得られた経済的効果（見込みを含む） ※複数回答可	<input type="checkbox"/> コストの削減 （例）効果的なアドバイスを受けたことで、開発時間・労力を削減できた		
	<input type="checkbox"/> 売上/利益の獲得 （例）依頼試験により海外認証を取得し、海外での売上が見込まれる		
	<input type="checkbox"/> 将来的なメリット （例）不具合の原因究明ができたため、欠陥に起因する損失を回避できた		
	<input type="checkbox"/> 経済的効果が感じられなかった（以降の(2)、(3)の回答は不要です）		
(2) 経済的効果の概算金額	<input type="checkbox"/> 50万円以下	<input type="checkbox"/> 50万～100万円	<input type="checkbox"/> 100万～300万円
	<input type="checkbox"/> 300万～500万円	<input type="checkbox"/> 500万～1,000万円	<input type="checkbox"/> 1,000万～3,000万円
	<input type="checkbox"/> 3,000万～5,000万円	<input type="checkbox"/> 5,000万～1億円	<input type="checkbox"/> 1億円超（約 億円）
(3) 経済的効果が得られた場合の具体的な内容 ※支障の無い範囲でお答えください			

5. 都産技研をご利用されたことで得られた事業効果についてお答えください。


(1) 都産技研のご利用によって得られた事業効果 ※複数回答可	製品開発	<input type="checkbox"/> 新規事業・新技術分野への参入を決断することができた
		<input type="checkbox"/> 製品の企画・研究が進んだ
		<input type="checkbox"/> 試作品を作ることができた
		<input type="checkbox"/> 知的財産を取得することができた
		<input type="checkbox"/> 製品化・事業化することができた
		<input type="checkbox"/> 受賞・マスコミ報道等で取り上げられた
	販路開拓	<input type="checkbox"/> 売上を伸ばすことができた
		<input type="checkbox"/> 新規顧客を獲得することができた
		<input type="checkbox"/> 融資を獲得することができた
		<input type="checkbox"/> 海外展開をすることができた
		<input type="checkbox"/> クレームに対処することができた
(2) 事業効果が得られた場合の具体的な内容 ※支障の無い範囲でお答えください		

(3) 運営面 に対する要 望 ※複数回答可	<input type="checkbox"/>	手続きの簡素化	
	<input type="checkbox"/>	利用時間の拡大	
	<input type="checkbox"/>	機器の充実（下欄に詳細をご記入ください）	
	詳細記入欄	①新規導入・既存で更新してほしい機器名	
	詳細記入欄	②上記①の機器の使用用途	※記入例：有機ELの特性評価
	詳細記入欄	③上記機器の希望性能	※記入例：〇㎡以上の製品が試験可能
	<input type="checkbox"/>	職員の質の向上	
	<input type="checkbox"/>	情報発信・情報公開の充実	
	<input type="checkbox"/>	料金の支払いに関して（下欄に詳細をご記入ください）	
	詳細記入欄		
<input type="checkbox"/>	その他（都産技研に対する新規事業への期待・要望等について、下欄に詳細をご記入ください）		
詳細記入欄			

7. 都産技研からの情報提供（ウェブサイト、メールニュース、TIRI NEWS、note 等）についてご意見などがありましたら、お聞かせください。

- ・ウェブサイト : <https://www.iri-tokyo.jp/>
- ・メールニュース : 講習会・技術セミナー等の募集、研究成果発表会・施設公開等のイベント、刊行物の紹介情報などを随時配信しています。
- ・TIRI NEWS : 都産技研が保有する技術シーズや幅広い支援事業の発信を目的に発行している技術情報メディア。
<https://www.iri-tokyo.jp/tiri-news/>
- ・都産技研 note : 都産技研の職員や設備の魅力を幅広く発信するメディア。
<https://mag.iri-tokyo.jp/>

※メールニュースの配信を希望される方は下記アドレスもしくは QR コードから WEB サイトにアクセスいただき、配信のお申込みをお願いいたします。

Web サイトアドレス	QR コード
https://www.iri-tokyo.jp/information/mail-news/	

8. 都産技研へのご意見・ご要望がございましたら、お聞かせください。（自由意見）

最後までご回答いただきましてありがとうございました。

返信用封筒へ入れて投函してください。

登録番号 都産技 2026-2号

2025年 都産技研の利用に関する調査 アウトカム評価報告書

2026年4月発行

発行 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-10
TEL：03-5530-2111（代表）
FAX：03-5530-2536
URL <https://www.iri-tokyo.jp/>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用